

# 2021年度洛友会総会 講演会

## 生きものの循環論から見る 日本列島・ユーラシア農法史、 農業経営史へ — 私の農史研究の歩み —

2021年11月6日

大阪経済大学名誉教授・前学長  
徳永 光俊



# 報告要旨

本報告は、私の大学院以来（1974～）の農史研究をふり返りながら、とくに定年退職後（2020～）に考えていることを中心にしたものです。

序章「私の農史研究をふりかえって」は、私の歩みを簡単に紹介する（詳しくは『大阪経大論集』第71巻2号）。私の農史研究の柱の一つは、1977年以来現在まで毎月続けている関西農業史研究会である。間もなく400回である。三橋時雄、飯沼二郎、岡光夫先生にお世話になった。農史ゼミでは三好正喜先生の指導を受けた。もう一つの柱は史資料の博搜と文献考証による「くそ実証」、そして農業現場のフィールドワークである。これらにより帰納的に抽象化する、自前の概念装置で考える、日常の日本語で表現することを心掛けてきた。

第1章「大和農法の研究」は、主に大学院・ODの時の研究である。奈良盆地中央部の旧家を訪ね歩いて、未発掘の古文書調査をした。大福帳1冊を2～3週間かけて読み、やっと1枚の表が出来上がる。「作りまわし・作りならし」をキーワードにまとめていた。

第2章「江戸農書、守田志郎、黒正巖の研究」は、ODそして大阪経済大学に勤めだしてから（1985～）の研究である。それまでの大和農法の研究をまとめて1990年に農学博士を取得し、1997年に『日本農法史研究』として公刊した。江戸農書はいくつかの農書の翻刻、現代語訳などをし、『日本農書全集』第Ⅱ期全37巻の編集委員をした。守田志郎の農法論に私はこだわり続けて、彼の2冊の著作の解説を書いた。黒正巖は、私の所属した農史ゼミの初代教授であり勤務先の初代学長であった。黒正が創立に尽力した日本経済史研究所の所長を1999年から6年務めて、『黒正巖著作集』全7巻や研究書を2冊出した。

第3章「大阪経済大学の教育」は、2005年から学内の各種役職をし、2010年から2019年まで学長を務めた。ODの苦しい時に拾っていただいた恩返しである。「学生が大学の主人公」を基本に、「そっと手を添え、じっと待つ」の教育哲学で、学生たちの自発的な伸びる力を育てるように努めた。人を育てる教育と作物や家畜を育てる農業は、同じ原理である。私が生活できたのは、学生のおかげである。手抜きは許されない。定年まで34年間勤めた。

第4章「生きもの循環論からみる農法論」、終章「農業経営史への新たな試み」は、定年後のこの1年半、朝から夕方まで研究三昧、晩はイエ酒耽溺の毎日で考えたことである。

第1の論理的飛躍。「生きもの循環論」である。自発性をもつ生きものたちが協働＝相互扶助しながら、食べて食べられてまわる食物連鎖(食べまわし)によって、生きものたちすべてが個と種の再生産を目的として持続し循環していくことである。「農業」とは人類が人為として野生の一部の生きものを作物化・家畜化、土地の耕地化をして、生きもの循環(まわし)を実現するために、生きものたちの自発性を調整・和合(合わせ)させて、人類の個と種の再生産と、本来的には平等(ならし)をめざす営みである。農法は、狭義(農業技術体系)・広義・大義の農法の三層があり、生きまわしの農法である。農法革命により、<天然農法→人工農法→天工農法>と展開し、攪乱・歪曲・亀裂していた生きもの循環が再興する。

第2の大胆な論理的飛躍。私は3つの主体—環境系に関わる狭義・広義の日本農法の原理を、<まわす⇔まわされる>のまわし、<ならず⇔ならされる>のならし、<合わす⇔合わされる>の合わせとして考える。主体から環境に対してはまわすと能動的となり、主体からは環境はまわされると受動的に捉えられるが、逆に環境からみれば主体を能動的にまわしているのであり、主体はまわされている。主体—環境系の相互扶助、在地という場での両者の協働的な創発による農法である。この2つの論理的飛躍は私のカンである。

驚いた。これは恩師の三橋時雄先生の「農業経営史」ではないか。私は農法論・農法史を45年間ひたすら研究してきたが、農業経営史に原点回帰するとは。黒正巖からの農史講座の伝統と三橋農業経営史を受け継ぎ発展させたいと願う。「温故知新」である。

# 生きもの循環論から見る日本列島・ユーラシア農法史、農業経営史へ

## 全体の構成

序章	私の農史研究をふりかえって	レジュメNo. 2～4
第1章	大和農法の研究（下記の②・③）	レジュメNo. 5～9
第2章	江戸農書、守田農法論、黒正巖の研究（②・③）	レジュメNo. 10～12
第3章	大阪経済大学の教育（④）	レジュメNo. 13～17
第4章	生きもの循環論から見る農法論（⑤）	レジュメNo. 18～29
終章	生きもの循環論による農業経営史の新たな試み（⑤）	レジュメNo. 30～35



四歳くらいか



小学一、二年生くらいか

## 序章 私の農史研究をふりかえって

### 第1節 私の歩み

- ①1952 (誕生) ～1971 [少年期：松山時代]
- ②1971 (上京) ～1985 [青年期：京都時代①]
- ③1985 (就職) ～2005 [成年期：大経大時代①] ※1999～2005 研究所所長
- ④2005 (役職) ～2019 [壮年期：大経大時代②] ※2010～2019 学長
- ⑤2020 (退職) ～2032 [熟年期：京都時代②]
- ⑥2032 (退学) ～?? [老年期：京都時代③]



中学一年生の運動会の応援姿



高校三年生のサッカーの試合

### 第2節 私のおもな研究一覧

- 単著 「農業技術の社会文化史—大和農法の構造と展開—」 京都大学農学博士論文1990年
- 単著 『日本農法史研究—畑と田の再結合のために—』 (334頁) 1997年 農文協
- 論文 「大和農法の伝統と変容—奈良盆地中央部の戦前から戦後にかけて—」  
『大阪経大論集』第70巻3号 2019年
- 共著 『城と川のある町—大和郡山市歴史散歩—』 1988年 文理閣
- 共著 『日本農書全集』第I期 第10、28、30、35巻 1977～83年 農山漁村文化協会
- 共編 『日本農書全集』第II期 全37巻 1993～97年 農文協
- 共編 『写真で見る朝鮮半島の農法と農民』 2002年 未来社 (韓国版も)
- 共編 『社会経済史学の誕生と黒正巖』 2001年 思文閣出版
- 共編 『黒正巖著作集』全7巻 2002年 思文閣出版
- 共編 『経済史再考—日本経済史研究所開所70周年記念論文集—』 2003年 思文閣出版
- 編著 『黒正巖と日本経済学』 2005年 思文閣出版
- 単著 『日本農法の水脈—作りまわしと作りならし—』 (270頁) 1996年 農文協
- 単著 『日本農法の天道—現代農業と江戸期の農書—』 (258頁) 2000年 農文協
- 単著 『日本農法の心土—まわし・ならし・合わせ—』 (292頁) 2019年 農文協

論文 「日本列島の自然観の移り変わり新たな創造を旨として」 『耕』第149号 2020年

論文 「生きもの循環論から見る新たな日本農法史の試み」 『大阪経大論集』第71巻2号

研究ノート 「『庄内農法』に関する近現代史年表と研究文献リスト」 同第71巻4号 2020年

論文 「生きもの循環論から見る比較農法論と日本列島農法史の試み」 同第71巻6号 2021年

論文 「生きもの循環論からみる飯沼農法論の再検討」 同第72巻1号 2021年

論文 「生きもの循環論からみる熊代比較農法論の検討」 同第72巻2号 2021年

論文 「生きもの循環論からみる守田農法論の再検討」 同第72巻3号 2021年

論文 「生きもの循環論による農法論から農業経営史へ」 同第72巻4号 2021年

論文 「生きもの循環論からみる主体—環境系の農業経営史の試み」 同第72巻5号 2022年予定

(『大阪経大論集』の論文は、すべて大阪経大会のHPで公開)

# 私の農史研究の柱(1) 関西農業史研究会

## —関西農業史研究会での研究報告のタイトル一覧—

- 1977年 「書評・飯沼二郎・堀尾尚志著『農具』」  
1978年 「近世大和の農業技術」  
1979年 「書評・三橋時雄著『日本農業経営史の研究』」  
同年 「親民鑑月集と近世南伊予の農業」  
1980年 「幕末大和における一農民の生産と生活—上武日記の分析—」  
1982年 「幕末畿内の作付方式」  
1983年 「奈良盆地中央部における農業生産の展開」  
1984年 「奈良盆地中央部における近代農業への転換(1)」  
同年 「奈良盆地中央部における近代農業への転換(2)」  
1985年 「奈良盆地中央部における近代農業の確立(1)」  
1986年 「奈良盆地中央部における近代農業の確立(2)」  
1989年 「農業技術の社会文化史—大和農法の構造と展開—」  
1990年 「日本農業技術史序説—大和農法の構造と展開—」  
1991年 「大和農法の伝統と変容—戦前から戦後にかけて—」  
~~~~~  
1993年 「近世農書にみる農法の改良・普及・受容」  
1994年 「飯沼農業革命論の展開」  
1995年 「学藝・文藝・農藝としての近世農書」  
1997年 「大和農法の変容と再建—現代日本農法史に向けて—」  
1998年 「コスモスとしての近世農書—作りまわしから天のまわしへ—」  
同年 「日本における朝鮮農書研究の現状—東アジア農書論に向けて—」  
2002年 「江戸・明治農書にみる天の道・地の利・人の事」  
2006年 「江戸農書にみる自然・技術・労働—日本農学の源流—」  
~~~~~  
同年 「日本の風土における自然観と農学」  
2007年 「現代日本農学の批判的検討—柏祐賢から宇根豊へ、そして—」  
2009年 「現代日本農法論の構築に向けて—研究会の学統の継承—」  
2010年 「農法史からみた日本農学原論序説」  
2012年 「動的風土均衡論としての『合わせ』の日本農法」  
2013年 「日本的な農業・農学とは何か—最近の研究動向より—」  
2014年 「循環的風土和合論からみる日本農法史と今後の展望—比較農法史的に—」  
2015年 「最近の(有機)農業論の動向と日本農業の未来」  
2019年 「横田冬彦著『農書と農民』をめぐって」  
~~~~~  
2020年 「生きものの循環論から見る比較農法史」(コロナで報告出来ず)計32回報告

関西農業史研究会：1977.6～2021.4まで、  
44年間で389回の毎月1回の研究例会、現在も継続中  
近畿農書読む会：1981.8～2019.5まで、  
39年間で37回毎年1回、全国の農書の故郷探訪、現在は休会  
同志：  
研究会は在野で、全国の多くの農業史好きの仲間たち。  
現在まで44年間ずーっと世話人。

恩師：  
三橋時雄 京大教授(黒正博士の弟子)  
飯沼二郎 京大教授(黒正博士の弟子)  
岡 光夫 同志社大教授(古島敏雄 東大名誉教授の弟子)  
三好正喜 京大教授  
原田 津 農文協編集部長(≡守田志郎 名城大教授)  
鈴木 良 奈良女子大附中・高教諭(のち立命館大学教授)  
堀内金義さん(奈良・トマト農家)  
やまと農談会：1993.4～2011.4 18年間 毎月  
門脇栄悦さん(山形・スイカ農家)  
(門脇さんを除き、いずれも故人)



1984.4 関西農業史研究会



1989.6 関西農業史研究会

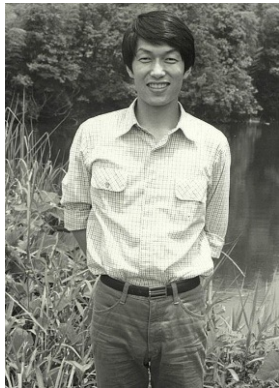
## 私の農史研究の柱(2) 史資料博搜・文献考証・フィールドワーク

### クルチモウスキーの『農学原論』" Philosophie der Landwirtschaftslehre" をめぐって

『改訂 農学原論』(原著は1919 橋本伝左衛門訳 1954 地球出版 初訳1932 西ヶ原刊行会)  
農学成立の沿革を古代から、テーヤ、シュヴェルツ、チューネン、リービッヒを検討したうえで、「これまでわれわれは、農業をもって一つの事業であるとした。しかし、農業は単に事業であるばかりでなく、同時にまた一つの自然現象である。すなわち農業はまた、人間と栽培植物および家畜との共棲Symbioseである、と見ることができるのである。」(同書62頁)

「農業史および農業地理学をもって実験農学の補足」(同書第9章)。「以上吾々は、農業については、純理論的・合理主義的の把握のしかたでは、十分満足すべき認識は得られない、ということを明らかにした。農業というものは、理くつでは組み立てられない、それは歴史的に発達し、しかもその間淘汰によって間断なく改良され、完成に向い、外界に順応して来たものである。それだからこそ農業に関する経験的研究の必要と意義があり、さらの歴史的立場の重要さがあるのである。農業の経験的研究は、なによりもまず地理的考察、すなわち農業地理学によって推進されるのである。」(同書192頁) これまで「展開してきた農業的世界観は・・・ゲーテの歴史的=実在的世界観と一致し・・・現存する学者の中では、吾々は博学者エドワード・ハーンを推す。かれの書いたもののなかには、至るところ農業の歴史=地理的立場が現れている。」(同書202頁)。

黒正巖は『経済学地理学原論』(1941 日本評論社)で、「静止せる経済史は経済地理であり、流動する経済地理学は経済史である」(『黒正巖著作集』第5巻54頁 1992 思文閣出版)と述べ、チューネンの『孤立国』の紹介において、クルチモウスキーの『農学原論』に言及(同書262頁)。



1981. 6 日本・天理市



2000. 3 韓国・北部



1989. 3 インドネシア・ジャワ



1988. 8 中国・上海



1998. 10 ポーランド・ポツナム

海外調査・訪問など計71回

|       |     |
|-------|-----|
| 韓国    | 30回 |
| 中国    | 17回 |
| 台湾    | 5回  |
| 東南アジア | 5回  |
| ヨーロッパ | 6回  |
| アメリカ  | 6回  |
| その他   | 2回  |



1998. 6 アメリカ・カリフォルニア

# 第1章 大和農法の研究 奈良盆地中央部の農業生産の推移

表4 中城・A家の農業生産

| 年    | 標    | 小 | 菜 | 菹 | 豆 | 米反収(石) | 主要稲品種               | 備考                       | 米反収(石) | 主要稲品種                   | 備考   | 米反収(石) | 備考 |   |   |           |      |
|------|------|---|---|---|---|--------|---------------------|--------------------------|--------|-------------------------|------|--------|----|---|---|-----------|------|
| 明治28 | ○    | ○ | ○ | ○ | ● | 2.27   | 須久美糯 山田穂 毛糯 国早糯     | 五目作, 本作と表記               | 昭和4    | 晩生糯 矢田神力 タ毛神力 朝日穂       | 昭和38 | ○      | ○  | ○ | ○ | 大豆なくなる    | 3.76 |
| 29   | ○    | ○ | ○ | ○ | ● | 2.29   | ○ 石塚穂 ○ ○           |                          | 5      | ○ ○ 改良朝日 米販売 旭穂         | 39   | ○      | ○  | ○ | ○ | 毒はじまる     | 3.26 |
| 30   | ○    | ○ | ○ | ○ | ● | 1.8    | ○ ○ 岡山穂             |                          | 6      | 糯 旭早糯 ○ 旭穂              | 40   | ○      | ○  | ○ |   | 3.05      |      |
| 31   | ○    | ○ | ○ | ○ | ● | 2.85   | 八条早糯 ○ 真力穂 ○        |                          | 7      | 旭糯 ○ 矢田神力 ○             | 41   | ○      | ○  | ○ | ○ | 毒にビニール入る  | 3.6  |
| 32   | ○    | ○ | ○ | ○ | ● | 2.57   | ○ ○ ○ 赤糯            | 白真瓜, 銀真瓜 畑-畑, 茄子, 西瓜, 胡瓜 | 8      | ○ ○ 名古屋旭 ○              | 42   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.90 |
| 33   | ○    | ○ | ○ | ○ | ● |        | ○ ○ ○ ○ 油粕, 真粉粕, 種粕 |                          | 9      | ○ ○ ○ ○ 青物, とまと, 桃(小林)  | 43   | ○      | ○  | ○ | ○ | ハウス, トンネル | 3.53 |
| 34   | ○    | ○ | ○ | ○ | ● | 2.8    | ○ ○ ○ 山城穂           |                          | 10     | ○ ○ ○ ○ かわら, ホーレン草, 広島菜 | 44   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.3  |
| 35   | ○    | ○ | ○ | ○ | ● | 2.12   | ○ ○ 中稲糯 中稲真力 ○      |                          | 11     | ○ ○ ○ ○ 農林2号            | 45   | ○      | ○  | ○ | ○ | 毒         | 3.5  |
| 36   | ○    | ○ | ○ | ○ | ○ | 2.4    | ○ ○ ○ ○             |                          | 12     | 肥料-大豆粕, 棉実粕, 硫安, 石灰     | 46   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 2.93 |
| 37   |      |   |   |   |   | 2.82   | 真力早糯 晩稲真力 ○ ○       |                          | 13     |                         | 47   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.4  |
| 38   |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○             |                          | 14     |                         | 48   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.67 |
| 39   | 記述ナシ |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○             |                          | 15     |                         | 49   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.87 |
| 40   |      |   |   |   |   | 2.80   | ○ ○ ○ ○ 交神力         | 真力→神力                    | 16     |                         | 50   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.75 |
| 41   |      |   |   |   |   | 3.0    | ○ ○ 高知神力 ○          |                          | 17     |                         | 51   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.6  |
| 42   |      |   |   |   |   |        | 二本早糯 ○ ○ ○          | ブドウ, 梨 日本大西瓜, アイスクリーム    | 18     |                         | 52   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 4.0  |
| 43   | ○    | ○ | ○ | ○ | ● | 2.75   | ○ ○ ○ ○             | 茄子, 胡瓜, 三度豆, 白瓜          | 19     | 標 小 菜 菹 豆               | 53   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 4.25 |
| 44   |      |   |   |   |   | 2.96   | ○ ○ ○ ○ 役場穂         | 真瓜, 南瓜, 大角豆, 芋など         | 20     | ○ ○ ○ ●                 | 54   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.6  |
| 大正1  | 大    | 大 |   |   |   | 2.65   | 福早糯 ○ 三輪穂 ○         |                          | 21     | ○ ○ ○ ●                 | 55   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.7  |
| 2    | ○    | ○ | ○ | ○ | ● |        | ○ ○ 味間穂 ○           |                          | 22     | ○ ○ ○ ●                 | 56   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.63 |
| 3    | ○    | ○ | ○ | ○ | ● |        | ○ ○ ○ ○ 金摺          |                          | 23     | ○ ○ ○ ○ ●               | 57   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.8  |
| 4    |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○             |                          | 24     | ○ ○ ○ ○ ●               | 58   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.1  |
| 5    |      |   |   |   |   |        | 沢田早糯 ○ 播州神力 ○       | 青物, 梨(独逸, 長十郎)           | 25     | ○ ○ ○ ○ ●               | 59   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.73 |
| 6    |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○             |                          | 26     | ○ ○ ○ ○ ●               | 60   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.0  |
| 7    |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○ 朝日穂         |                          | 27     | ○ ○ ○ ○ ●               | 61   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.6  |
| 8    |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○             |                          | 28     | ○ ○ ○ ○ ●               | 62   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.8  |
| 9    |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○             |                          | 29     | ○ ○ ○ ○ ●               | 63   | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.77 |
| 10   |      |   |   |   |   |        | ○ ○ 生駒神力 ○          | 青物, とからし                 | 30     | ○ ○ ○ ●                 | 平成1  | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.6  |
| 11   |      |   |   |   |   |        | 稗田早糯 ○ ○ ○          | 西瓜の大飯天満行                 | 31     | ○ ○ ○ ●                 | 2    | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.5  |
| 12   |      |   |   |   |   |        | ○ 矢田神力 ○ 晩生糯        |                          | 32     | ○ ○ ○ ●                 | 3    | ○      | ○  | ○ | ○ |           | 3.46 |
| 13   |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○             | 西瓜の京都行                   | 33     | ○ ○ ○ ●                 |      |        |    |   |   |           | 3.46 |
| 14   |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○             |                          | 34     | ○ ○ ○ ●                 |      |        |    |   |   |           | 3.46 |
| 昭和1  |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ ○             | 牛あり, 上之郷預け               | 35     | ○ ○ ○ ●                 |      |        |    |   |   |           | 3.63 |
| 2    |      |   |   |   |   |        | ○ ○ 夕毛神力 ○          | 青物, めきな, 葱, 大根菜          | 36     | ○ ○ ○ ●                 |      |        |    |   |   |           | 2.93 |
| 3    |      |   |   |   |   |        | ○ ○ ○ 朝日穂           |                          | 37     | ○ ○ ○ ●                 |      |        |    |   |   |           | 3.65 |

(注) 大和郡山市中城町・A家文書「萬野作覚帳」「生産高帳」より、筆者が作成  
 ●, ○は, 作物や品種が継続していることを示す。

(徳永『大阪経大論集』第70巻3号 20, 21頁)

平成元年(1989年) 収支 3350947円 箱数 2386  
 米 36月30日 26月10日 収支代金 1428032円 箱数 609  
 米 17月南側 20袋 (20袋) 米箱 19袋 米箱(145箱) 19950円  
 7月アスカミ 23袋 米箱上下 17月 米箱 20袋  
 アスカミ 93袋 米箱 1袋 合計 137袋 米箱 108袋  
 青物 1袋 米箱 13500円 米箱 108袋  
 小麦 180K 米代金 786457円 米箱 108袋  
 米代金合計 921457円 (米箱 85320円)  
 昭和63年12月1日 平成元年11月3日 収支代金 3350947円  
 米代金合計 2548990円 昭和63年12月1日 平成元年11月3日  
 米箱代金合計 1120957円 米箱 11袋 米箱 11袋  
 平成2年(1990年) 収支 1769830円 米箱 3501  
 米 36月20日 26月20日 収支代金 1769830円 米箱 3501  
 米 17月南側 19袋 19袋 米箱 19袋 米箱 19袋  
 7ヶ月 123袋 合計 142袋 米箱 17月 17月 17月  
 22月 米箱 17月 17月 17月  
 米箱 18袋 (18袋) 米箱 112袋 米箱 11袋  
 米代金 3袋 112袋 851984円 (1袋 7607円)  
 米箱代金合計 1013984円  
 農業収入合計 2783814円 米箱 11袋 米箱 11袋  
 農業支出合計 1963852円 米箱 11袋 米箱 11袋



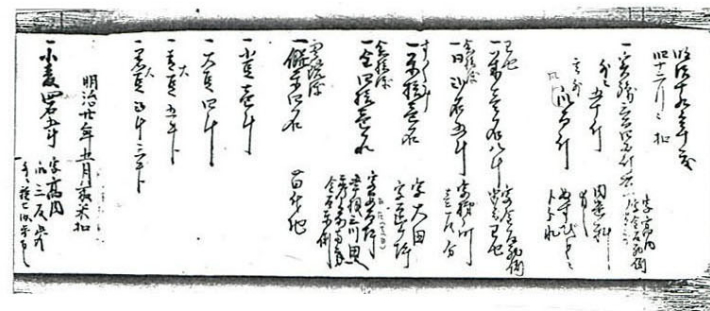
# 奈良盆地中央部の作付割合

表1-6 都村宮古・石橋家の作付割合

|      | 作付面積    |  |  | 生産量   |       |  | 反収   |       |      | 作付面積    |      |       | 生産量   |        |     | 反収   |       |  | 作付面積  |        |  | 生産量   |  |  | 反収  |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
|------|---------|--|--|-------|-------|--|------|-------|------|---------|------|-------|-------|--------|-----|------|-------|--|-------|--------|--|-------|--|--|-----|------|------|---------|--|--|---|--|--|---|--|--|---------|--|--|--|--|--|--|--|
|      | 町・反・畝   |  |  | 石     |       |  | 石    |       |      | 町・反・畝   |      |       | 石     |        |     | 石    |       |  | 町・反・畝 |        |  | 石     |  |  | 石   |      |      | 町・反・畝   |  |  | 石 |  |  | 石 |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
|      | < 合計 >  |  |  |       |       |  |      |       |      | < 早 稲 > |      |       |       |        |     |      |       |  | < 餅 > |        |  |       |  |  |     |      |      | < 中 稲 > |  |  |   |  |  |   |  |  | < 晩 稲 > |  |  |  |  |  |  |  |
| 明治19 |         |  |  | 63.3  |       |  |      |       |      | 1.8     |      |       |       |        |     | 4.   |       |  |       |        |  | 57.5  |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 20   |         |  |  | 48.89 |       |  |      |       |      | 4.1     |      |       |       |        |     | 2.41 |       |  |       |        |  | 42.38 |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 21   |         |  |  | 56.86 |       |  | ・ 7  | 2.25  | 3.21 |         |      |       | 5.03  | (2.67) |     |      |       |  | 49.58 |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 22   |         |  |  | 37.19 |       |  | 2・5  | 4.75  | 1.9  |         |      |       | 1.74  |        |     |      |       |  | 30.71 |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 23   | 2・1・5   |  |  | 67.51 | 3.14  |  |      | 12.57 |      |         |      |       | 4.81  |        |     |      |       |  | 48.0  |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 24   |         |  |  | 57.9  |       |  | 2・0  | 4.8   | 2.4  |         |      |       | 4.8   | (2.55) |     |      |       |  | 46.4  |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 25   |         |  |  | 79.17 |       |  | 2・3  | 5.44  | 2.37 |         |      |       | 3.93  | (3.0)  |     |      |       |  | 67.4  | (3.17) |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 26   | 2・1・7   |  |  | 40.1  | 1.85  |  | 1・1  | 2     | 1.82 | 2・2     | 4    | 1.82  | 1・84  |        |     |      |       |  | 31.8  | 1.73   |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 27   |         |  |  | 69.90 |       |  | 2・6  | 8     | 3.08 | 1・4     | 4.54 | 3.24  |       |        |     |      |       |  | 47.86 |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 28   |         |  |  | 33    |       |  | 2・0  | 2.2   | 1.1  |         |      |       | 2.8   |        |     |      |       |  | 28    |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 29   | 2・5・1   |  |  | 53.55 | 2.133 |  |      | 5.15  | 2.0  |         |      |       | 3.1   | 1.9    | 1・7 |      |       |  | 36.05 | 2.14   |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 30   | 2・1・5   |  |  | 46.3  | 2.15  |  | 2・0  | 4     | 2.0  | 1・7     | 3.0  | 1.76  | 1・7・8 |        |     |      |       |  | 37.6  | 2.11   |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 31   | 1・9・0   |  |  | 47.86 | 2.52  |  | 2・9  | 7.36  | 2.54 |         |      |       |       |        |     |      |       |  | 38.5  |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 32   | 1・9・2   |  |  | 42.2  | 2.20  |  | 1・3  | 2.6   | 2.0  | 1・3     | 2.4  | 1.85  | 1・3・8 |        |     |      |       |  | 32    | 2.32   |  |       |  |  | 2・8 | 5.2  | 1.86 |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 33   |         |  |  |       |       |  |      |       |      |         |      |       |       |        |     |      |       |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 34   | 1・7・2   |  |  | 47.1  | 2.74  |  | ・ 8  | 1.82  | 2.2  | 1・9     | 4.45 | 2.343 | 9・6   |        |     | 26   | 2.71  |  |       |        |  |       |  |  | 4・9 | 14.5 | 2.9  |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 35   | 1・9・7   |  |  | 45.62 | 2.32  |  | 1・4  | 3.22  | 2.3  | 1       | 2.4  |       | 1・3・0 |        |     | 30   | 2.307 |  |       |        |  |       |  |  | 4・3 | 10   | 2.32 |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 36   | 2・0・2   |  |  | 48.2  | 2.39  |  | 1・5  | 4.5   | 3.0  | 1・1     | 2.1  | 1.91  | 1・3・4 |        |     | 29.5 | 2.20  |  |       |        |  |       |  |  | 2・2 |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 37   |         |  |  |       |       |  |      |       |      |         |      |       |       |        |     |      |       |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 38   |         |  |  | 42.1  |       |  |      | 2.3   |      |         |      |       | 3     |        |     |      |       |  | 11    |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 39   | 1・5・7   |  |  | 42    | 2.68  |  | 1・7  | 4.5   | 2.65 | 1・0     | 2.5  | 2.5   | 4・0   |        |     | 11   | 2.75  |  |       |        |  |       |  |  | 5・0 | 13.8 | 2.76 |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 40   | 1・5・55  |  |  | 46.65 | 3.0   |  | ・ 65 | 2.2   | 3.28 | 1・3     | 3.25 | 2.5   | 1・6   |        |     | 4.6  | 2.87  |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 41   | 1・5・2   |  |  | 49.3  | 3.24  |  | ・ 5  | 1.4   | 2.8  | 1・2     | 3.7  | 3.08  | 5・7   |        |     | 17.4 | 3.05  |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 42   | (1・5・0) |  |  | 43.3  | 2.8   |  |      | 2.0   |      | 1・4     | 3.8  |       | 4・0   |        |     | 8.8  |       |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 43   | 1・6・5   |  |  | 49.1  | 3.03  |  | ・ 6  | 1.8   | 3.0  | 2・0     | 5.75 | 2.87  | 2・1   |        |     | 6.2  | 3.0   |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 44   |         |  |  | 45.8  | 3.0   |  |      | 3.5   |      | 2・5     | 7.3  | 2.9   | 4・0   |        |     | 11.3 | 2.8   |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 大正1  | 1・5・5   |  |  | 41.3  | 2.69  |  |      |       |      | ・ 5     | 1.3  | 2.6   | 5・0   |        |     | 11.0 | 2.2   |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 2    | 1・6・6   |  |  | 30.9  | 1.86  |  |      |       |      | 1・1     | 1.35 | 1.227 | 2・2   |        |     | 3.2  | 1.45  |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 3    | 1・5・3   |  |  | 50.6  | 3.3   |  |      |       |      | 1・3     | 4    | 3.1   | 3・0   |        |     | 9.3  | 3.1   |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 4    | 1・4・6   |  |  | 43.0  | 2.94  |  |      |       |      | 1・3     | 3.7  |       | 1・0   |        |     |      |       |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 5    | 1・4・5   |  |  | 43.7  | 3.0   |  |      |       |      | 1・1     | 3.3  | 3.0   |       |        |     |      |       |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |
| 6    | 1・1・2   |  |  | 23.65 | 1.9   |  |      |       |      | 1・3     | 2.95 | 2.27  |       |        |     |      |       |  |       |        |  |       |  |  |     |      |      |         |  |  |   |  |  |   |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |

(注) 宮古・石橋源内家文書「農業作米控帳」「農作動定帳」より。

(徳永『日本農法史研究』48, 49頁)



# 奈良盆地中央部の作りまわし

表1-5 都村宮古・石橋家の作りまわし

| 小字名 | 面積         | 19裏        | 20裏       | 21裏       | 22裏       | 23裏 | 24裏 | 25裏       | 26裏 | 27裏 | 28裏       | 29裏 | 30裏 | 31裏 | 32裏       | 33裏       | 34裏       | 35裏       | 36裏       |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |
|-----|------------|------------|-----------|-----------|-----------|-----|-----|-----------|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 秀の前 | 2.5        | 倉橋は<br>菜種  | 菜種        | 麦安        | 初瀬は<br>米  | 米   | 麦安  | 早稲        | 空豆  | 麦安  | 菜種        | 米   | 麦安  | 早稲  | 空豆        | 小麦        | 新町は<br>菜種 | 四石は<br>麦安 | 麦安        | 麦安<br>えん豆 | 餅<br>岩井は  | 空豆        | 小麦        | 神力        | 中稲        | 麦安<br>えん豆 | 早稲<br>石塚  |           |           |           |
| 金又  | 2.5        | 倉橋は<br>空豆  | 空豆        | 菜種        | 初瀬は<br>米  | 米   | 菜種  | 菜種        | 早稲  | 蚕豆  | 米         | 麦安  | 菜種  | 早稲  | 空豆        | 小麦        | 四国は<br>麦安 | 早稲        | 空豆        | 小麦        | 神力        | 菜種        | 神力        | 小麦        | 麦安<br>えん豆 | 石塚        | 桑バ        |           |           |           |
| 柿ノ町 | 1.1        | 倉橋は<br>空豆  | 空豆        | 菜種        | 初瀬は<br>米  | 米   | 菜種  | 餅         | 麦安  | 菜種  | 早稲        | 蚕豆  | 麦安  | 菜種  | 早稲        | 空豆        | 小麦        | 四国は<br>麦安 | 早稲        | 空豆        | 菜種        | 菜種        | 小麦        | 神力        | 中稲        | 小麦<br>えん豆 | 神力        |           |           |           |
| 三川田 | 2.0        | 倉橋は<br>菜種  | 菜種        | 麦安        | 綿         | 空豆  | 米   | 菜種        | 早稲  | 空豆  | 麦安        | 餅   | 菜種  | 早稲  | 菜種        | 小麦        | 新町は<br>菜種 | 四石は<br>麦安 | 菜種        | 菜種        | 岩井は       | 空豆<br>えん豆 | 小麦        | 神力        | 中稲        | 小麦<br>えん豆 | 神力        |           |           |           |
| 太田  | 2.0        | すくみ<br>麦安  | 綿         | 空豆        | 初瀬は<br>麦安 | 綿   | 菜種  | 早稲        | 麦安  | 綿   | 空豆        | 麦安  | 米   | 菜種  | 早稲        | 菜種        | 小麦        | 新町は<br>菜種 | 四石は<br>麦安 | 菜種        | 岩井は       | 早稲<br>神力  | 麦安        | 神力        | 赤まは<br>空豆 | 中稲        | 小麦        | 石塚        |           |           |
| 荒田坪 | 2.8        | 倉橋は<br>麦安  | 綿         | 麦安        | スクミ       | 麦安  | 綿   | えん豆<br>菜種 | 麦安  | 麦安  | 綿         | 空豆  | 米   | 麦安  | 餅         | 麦安        | 米         | 麦安        | 餅         | 麦安        | 大豆        | 空豆        | 西瓜        | 麦安        | 餅         | 麦安        | えん豆       | 中稲        | 小麦        | 桑バ        |
| 西東  | 0.3<br>1.0 | 倉橋は<br>こまい | こまい<br>大豆 | 大豆        | 初瀬は<br>小麦 | 小麦  | 空豆  | 菜種        | 小麦  | 餅   | 麦安        | 米   | 麦安  | 餅   | 麦安        | 大豆        | 空豆        | 西瓜        | 麦安        | 大豆        | 空豆        | 西瓜        | 麦安        | 餅         | 麦安        | えん豆       | 中稲        | 小麦        | 桑バ        |           |
| 九反田 | 2.0        |            |           | (小作人より買入) | えん豆       | 米   | 麦安  | 綿         | 空豆  | 麦安  | 早稲        | 麦安  | 米   | 麦安  | 餅         | 麦安        | 大豆        | 空豆        | 西瓜        | 麦安        | 大豆        | 空豆        | 西瓜        | 麦安        | 餅         | 麦安        | えん豆       | 中稲        | 小麦        | 桑バ        |
| 高内  | 1.5<br>2.0 | 綿          | 小麦        | 早稲        | 麦安        | 綿   | 小麦  | 米         | 麦安  | 綿   | 小麦        | 空豆  | 菜種  | 麦安  | 麦安        | 麦安        | 麦安        | 麦安        | 麦安        | 麦安        | 小麦        | 空豆        | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 |
| 落田  | 1.0        |            |           |           | 初瀬は<br>麦安 | 綿   | 空豆  | 麦安        | 綿   | えん豆 | 米         | 麦安  | 米   | 麦安  | 餅         | 麦安        | 麦安        | 麦安        | 麦安        | 麦安        | 小麦        | 空豆        | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 |
| 迎ヶ坪 | 1.4        | すくみ<br>麦安  | 綿         | えん豆<br>空豆 | 餅         | 麦安  | 綿   | 菜種        | 餅   | 麦安  | 綿         | 小麦  | 米   | 麦安  | 米         | 麦安        | 米         | 麦安        | 米         | 麦安        | 草         | えん豆<br>空豆 | 麦安        | 小麦        | 空豆        | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 |
| 苗代地 | 1.0        | 餅<br>神力    | 餅         | 空豆        | スクミ       | 米   | 菜種  | 米         | 小麦  | 草   | えん豆<br>空豆 | 麦安  | 小麦  | 空豆  | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 |           |
| 南   | 0.7        | 麦安         | 綿         | 菜種        | 早稲        | 空豆  | 餅   | 小麦        | 餅   | えん豆 | 米         | 菜種  | 小麦  | 空豆  | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 | 新町は<br>菜種 |           |
| 南   |            | 麦安         | 早稲        | スクミ       |           |     |     |           |     |     |           |     |     |     |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |
| 北   | 1.0        |            |           | 菜種        |           |     | 麦安  | 麦安        |     |     |           |     |     |     |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |           |

| 小字名 | 37裏 | 38裏  | 39裏 | 40裏 | 41裏 | 42裏        | 43裏  | 44裏          | 大1裏          | 表           | 2裏   | 表   | 3裏  | 表        | 4裏   | 表    | 5裏  | 表  | 6裏   | 表  | 7裏  | 表  | 8裏 | 表  | 9裏   | 表  | 10裏 | 表    |  |  |
|-----|-----|------|-----|-----|-----|------------|------|--------------|--------------|-------------|------|-----|-----|----------|------|------|-----|----|------|----|-----|----|----|----|------|----|-----|------|--|--|
| 秀の前 | 空豆  | 江州は  | 中稲  | 小麦  | 麦   | 高知神力<br>早稲 | 空豆   | 中稲大町<br>高知神力 | 小麦           | 高知神力<br>早稲  | 麦    | 江州は | 江州は | 小麦       | 中稲   | 小麦   | 前栽穂 | 麦安 | 高知神力 | 小麦 | 前栽穂 | 空豆 | 麦安 | 小麦 | 高知神力 | 空豆 | 江州は | 高知神力 |  |  |
| 金又  | 麦   | 餅    |     |     |     |            |      |              |              |             |      |     |     |          |      |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 柿ノ町 |     |      |     |     |     |            |      |              |              |             |      |     |     |          |      |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 三川田 |     |      | 神力  | 菜種  | 早稲  | 空豆         | 江州徳  | 菜種           | 中稲大町         | 麦           | 中稲大町 | 小麦  | 江州徳 |          | 中稲   | 空豆   | 江州徳 |    | 高知神力 |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 太田  |     |      |     |     | 麦   | 高知神力       | 麦    | 高知神力         | 麦            | 江州徳         |      | 神力  |     | 餅        | 高知神力 |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 荒田坪 | 小麦  | 神力   | 神力  | 空豆  | 江州徳 | 麦          | 高知神力 | 小麦           | 中稲大町<br>高知神力 | 麦           | 高知神力 | 空豆  | 江州徳 | 日本力      | 麦安   |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 西東  | 空豆  | 江州は  |     | 空豆  | 江州徳 | 菜種         | 大町中手 | 小麦           | 江州徳          | 小麦          | 中稲大町 | 空豆  | 江州徳 | 中稲       | 小麦   |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 九反田 |     |      |     |     |     |            |      |              |              |             |      |     |     |          |      |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 高内  | 麦   | 中手石塚 | 江州徳 | 麦安  | 神力  | 菜種         | 餅    | 中稲大町<br>高知神力 | 麦            | 中稲大町<br>江州徳 | 空豆   | 江州徳 | 小麦  | 餅        | 菜種   | 高知神力 | 小麦  |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 落田  | 菜種  |      |     |     |     |            |      |              |              |             |      |     |     |          |      |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 迎ヶ坪 |     |      |     |     |     |            |      |              |              |             |      |     |     |          |      |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 苗代地 |     |      |     |     | 中稲  | 大町中手       | 高知神力 |              | 江州徳          |             |      |     |     |          |      |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 南   | 麦   | 江州は  | 餅   | 麦安  | 神力  | 夏大根        | 大町中手 | 空豆           | 餅            | 麦           | 中稲大町 | 小麦  | 中稲  | 西瓜<br>青物 | 麦安   |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 南   |     | 中手石塚 |     |     | 江州徳 |            |      |              |              |             |      |     |     |          |      |      |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |
| 北   | 麦   | 江州は  | 中稲  | 麦安  | 餅   | 空豆         | 江州徳  | 麦            | 中稲大町         | 小麦          | 餅    | 麦   | 中稲  | 空豆       | 江州徳  | 小麦   |     |    |      |    |     |    |    |    |      |    |     |      |  |  |

(注) 田原本町宮古・石橋源内家文書より。空白は記述がない。



# 奈良盆地中央部の稲作技術体系と生産力の推移

表4-8 奈良盆地中央部における在地の稲作技術体系の変遷

| 年           | 明14                      | 明16               | 明43                                     | 大正2                                                        | 大正4                                               | 大正8                                | 大正10                              | 大正11                       | 昭和11                                                                                            |
|-------------|--------------------------|-------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 史料          |                          |                   | 【磯城郡産業誌】                                | 【日本主要農作物耕作重要綱要】                                            | 【奈良県風俗誌】                                          |                                    | 【耕地整理組合設計書】                       |                            | 【水稲及陸稲耕種要綱】                                                                                     |
| 地域          | 阪手村                      | 檜垣村・式田喜平          | 朝倉村                                     | (平坦部)                                                      | (川東村・川西村・都村)                                      | 川東村伊与戸                             | 川東村八田                             | 平野村大網                      | (中和平坦)                                                                                          |
| 品種          | 中稲天満穂                    | 中稲成平穂             | 早・珍子<br>中・高砂、大和錦、<br>白玉、三把、中稲神力<br>晩・神力 | 早15%、陸勲、沢田穂<br>中25%、中生神力最可<br>晩50%、晩生神力、<br>改良神力<br>塩水選30% |                                                   | 早生神力<br>雄町<br>晩90%、五条穂、河内<br>穂、乙木穂 | 中10%<br>晩90%                      | 中10%<br>神力、五条穂<br>河内穂      | 早6% 旭早生<br>中11% 中生旭<br>晩83% 改良旭<br>唐箕選、塩水選57%                                                   |
| 播種日         | 4/22                     |                   | 4/25, 26                                | 4/27, 28                                                   | 4月下旬                                              | 5/1, 2                             | 5/1, 2                            | 4/27                       | 4/28~5/3                                                                                        |
| 播種量<br>(坪当) | 8合<br>本田反当3升8合           | 8合<br>本田反当3升5合    | 8合<br>本田反当6坪                            | 小粒種8合、大粒1升<br>本田反当3升、大粒4升                                  | 共同苗代<br>集合苗代                                      | 8合                                 | 7~8合<br>短冊苗代                      | 5~6合                       | 6~7合<br>短冊苗代                                                                                    |
| 整地          | 人力で4寸                    | 人力で7寸             | 一毛作田 4/1より<br>二毛作田表作取後                  | 裏作取後<br>備中畝で5~6寸                                           |                                                   |                                    |                                   |                            | 集合苗代50%<br>個人苗代40%<br>共同苗代10%<br>牛耕70% 4~5寸                                                     |
| 田植日         |                          | 6/21              | 一毛作田 5月下旬<br>二毛作田 6/22頃                 | 6/20~27                                                    | 早 6月上中旬<br>中・晩 6月中旬                               | 梨のぐろに5/20<br>6/15~25               | 水豊富なら6/19~<br>水不足 6/23, 24池水      | 6/23~30                    | 6/23~30                                                                                         |
| 一坪株数        | 30株                      | 36株               |                                         | 36株                                                        | 36株                                               |                                    |                                   |                            |                                                                                                 |
| 一株苗数        | 7~8本                     | 5~6本              | 7~8本<br>二毛作田の場合                         | 早7~8、中5~6、<br>晩4~5本                                        | 3~4本                                              |                                    |                                   |                            |                                                                                                 |
| 施肥<br>(反当)  | 干粕 27~8貫<br>人糞           | 焼酎粕 15貫<br>油粕 15貫 | 真粉粕 30貫<br>地肥 30貫<br>人糞 7荷<br>基肥のみ      | 大豆粕15貫、2番中耕前<br>地肥200貫、2番除草前<br>最近草木灰 20貫                  | 真粉、豆粕30~40貫<br>7月中旬に撒す<br>資力乏しきものは人糞、<br>青草肥、地肥のみ | 大豆粕26貫                             | 大豆粕25貫基肥<br>真粉粕10貫追肥              | 骨粉10貫<br>大豆粕 5貫<br>過燐酸 半臥入 | 堆肥 100貫<br>大豆粕23貫<br>過燐酸石灰 3貫<br>基肥<br>(N1.97L貫、P0.972貫、<br>K0.760貫)<br>最近、硫酸アンモニア<br>石灰窒素が急に増加 |
| 中耕除草        |                          | 中耕2回<br>除草2回      | 3回除草                                    | 2回 中耕<br>3回除草<br>最近除草車使用で1<br>回除草へらす                       | 3回 中耕<br>7月中旬あげ草<br>8月上旬とりあげ                      | 2回 中耕<br>3回除草<br>害虫駆除4回            | 2回 鋤備中、除草器<br>1回除草器<br>2回手で       | 3回手で                       | 3回の中耕除草<br>4回除草                                                                                 |
| 水管理         |                          |                   |                                         |                                                            |                                                   | 9/15~20落水                          | 9/20~ 落水                          | 9月中旬~ 落水                   |                                                                                                 |
| 刈取          | 11/10                    |                   |                                         |                                                            | 11月上旬~12月上旬                                       | 早 10/10<br>中 10/20<br>晩 11/20      | 早 10/25<br>中 11/3<br>晩 11/12, 13~ | 11月上旬~末日                   | 11月上旬~                                                                                          |
| 反収<br>(石)   | 早 2.2石<br>中 2.4<br>晩 2.4 |                   | 2.6石                                    | 上 3.1石<br>中 2.8<br>下 2.5                                   |                                                   | 2.8石                               | 2.65石                             | 2.8石                       | 上 3.3石<br>中 2.9<br>下 2.45                                                                       |



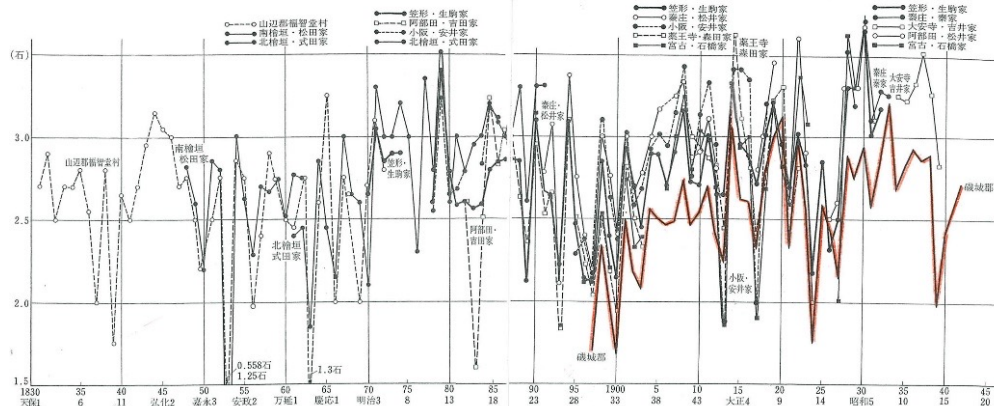
焼酎干粕の宣伝ちらし



化学肥料などの宣伝ちらし(前掲書276頁)

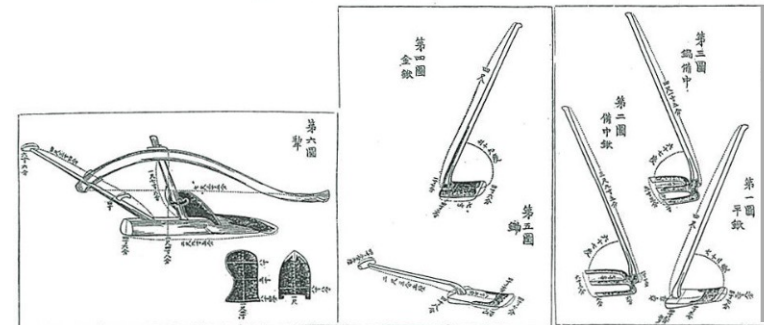
『日本農法史研究』272・273

図2-3 奈良盆地中央部における耕作地主層の稲反収の推移



(前掲書72・73)

図3-3 奈良盆地で使われた農具

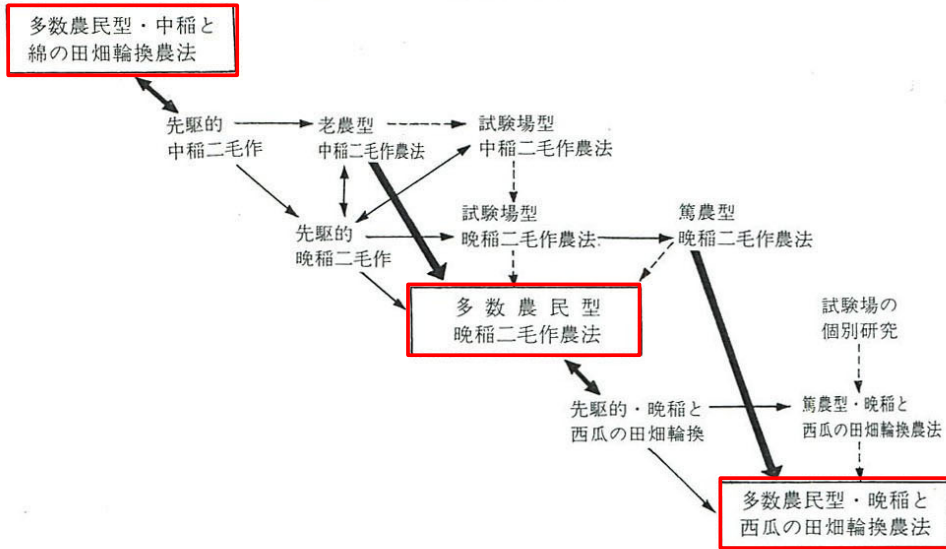


(注) 奈良県農事試験場【農事試験場成績】第9報, 1900年より。

(前掲書132頁)

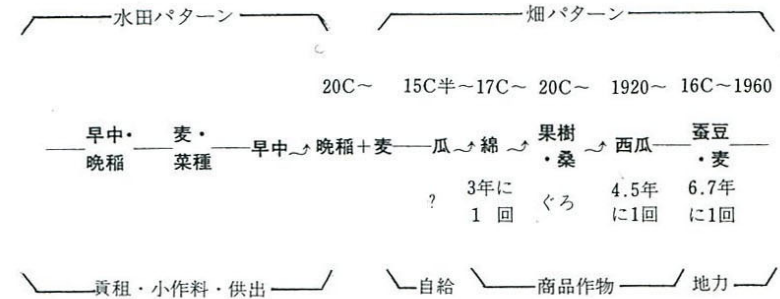
# 大和農法の作りまわし・作りならし

図4-7 在地農法の移り変わり

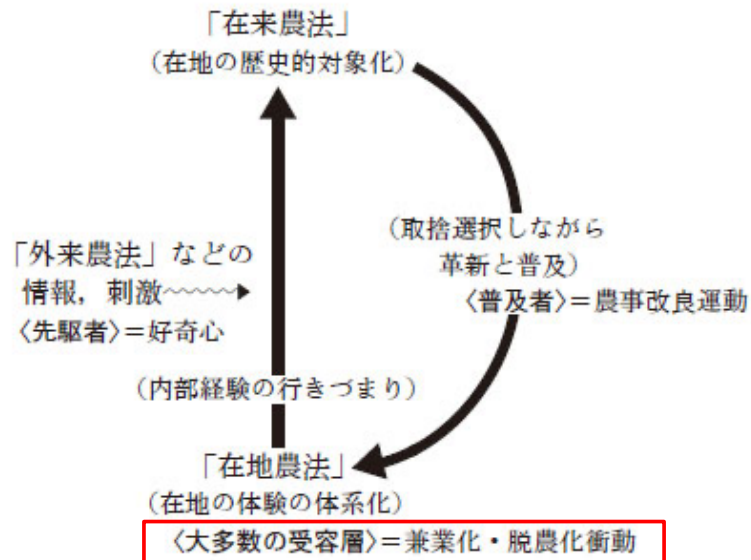


(前掲書 281頁)

図5-1 大和農法の作りまわし



(前掲書 293頁)



(徳永『大阪経大論集』第72巻4号138頁)

表5-1 大和農法の展開の法

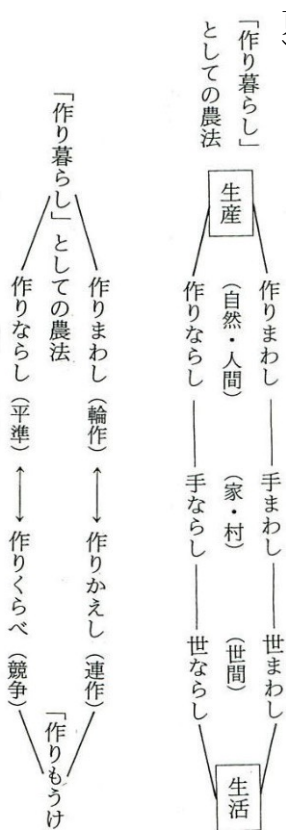
| 作りまわし<br>作りならし | 農法展開                     | 蚕豆<br>瓜と稲     | 蚕豆<br>綿と稲             | 蚕豆<br>晩稲神力と<br>ぐろ | 蚕豆<br>西瓜・蔬菜と<br>晩稲旭 | トマトとイチ<br>ゴの施設園芸    |                 |
|----------------|--------------------------|---------------|-----------------------|-------------------|---------------------|---------------------|-----------------|
| 交替期            | 崩れ・停滞<br>基盤整備<br>11C? 開田 | 14C<br>河川の番水制 | 17C末~<br>18C初<br>溜池築造 | 19C後半<br>溜池増改築    | 1920年代<br>耕地整理事業    | 1955~<br>吉野川分水      |                 |
| 展開期            | 増収・不安定<br>肥              | 刈敷            | 人糞尿                   | 18C半~<br>油粕<br>干粕 | 20C~<br>大豆粕         | 1920年代~<br>確安       | 1960年代~<br>化学肥料 |
| 安定期            | 高位・安定<br>耕               | 長床犁           | 平鋤                    | 19C~<br>備中鋤       | ×                   | 1920年代後半~<br>高北式短床犁 | ?               |

(前掲書 295頁)

# 第2章 江戸農書、守田志郎、黒正巖の研究

## 江戸農書から見るまわし・ならし・合わせ

### 〈守田志郎の農法論〉 (守田) 農業にとって技術とはなにか 解説 26頁



(徳永『日本農法の水脈』222, 223頁)

百姓だからといって、家業をおろそかにし、いい加減な暮らし方をし  
てはいけません。世間の百姓を見るがいい、最近になってみな身上が傾  
きかけているのではないか。ばくちを打つわ、邪遊びをするわ、身分不  
相応な芸事に血道をあげるわ、大酒を飲むわ、派手に着飾って遊び人の  
仲間に入るわ、とまあ、思いつく限り不行跡をする。これで身上がっ  
ぶれぬわけがない。ところが、それを見ていて自分は銭をつかうまいと、  
はいるらる。そういう人が身上をへらすのをよく見ていると、たとえ  
ば自分の家柄よりも上の家から養子をもたらしたり、下の家からもらっ  
たり、また、どうかすると山奥やよその國からもらったりして、家風に合  
ない者を家に入れて、商売人寄りの者が百姓になったり、百姓の家  
に生まれてもよく野良仕事をしたこともない者が大百姓の家にとり  
しても、うまく切り回せるはずがない。近ごろは、人を大勢使っても、  
うかうかしている、身上をつぶすために奉公人を雇っているようなも  
のだ。何よりの鑑戒には、五人や七人の家族の飯米や雑費だけなら十年  
や十五年たっても大したことはない。たとい田畑を売り食したところ  
で大百姓の財産はもっとやそつとで食いつぶせるものではないのであ  
る。ところが、奉公人の給銀となをばかにならぬ。それによつてお  
ずかの間に食いつぶされてしまふ。ともかく、百姓は「百姓の道」ひたす  
ら守ることだ。たとい作物の値段がどれだけ安くても、この家の百姓仕  
事を守っていくのだぞ。そのため、左記のとおり心得を書き出しておい  
た。わが家の子孫は後々まで年に一度は一通り読みとおし、よく考えて  
家代代々相続していかねばならぬ。  
そろそろ忙しい季節になった。心算くまに書いていたので、あて字  
や文のおかしいところもあるだろうが、ゆるしてはし。

山本家百姓一切有近道

『日本農書全集』第28巻 277, 278頁  
「山本家百姓一切有近道」1823・大和

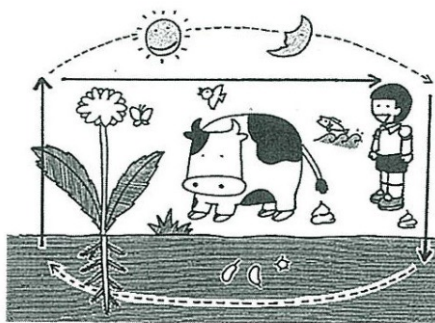
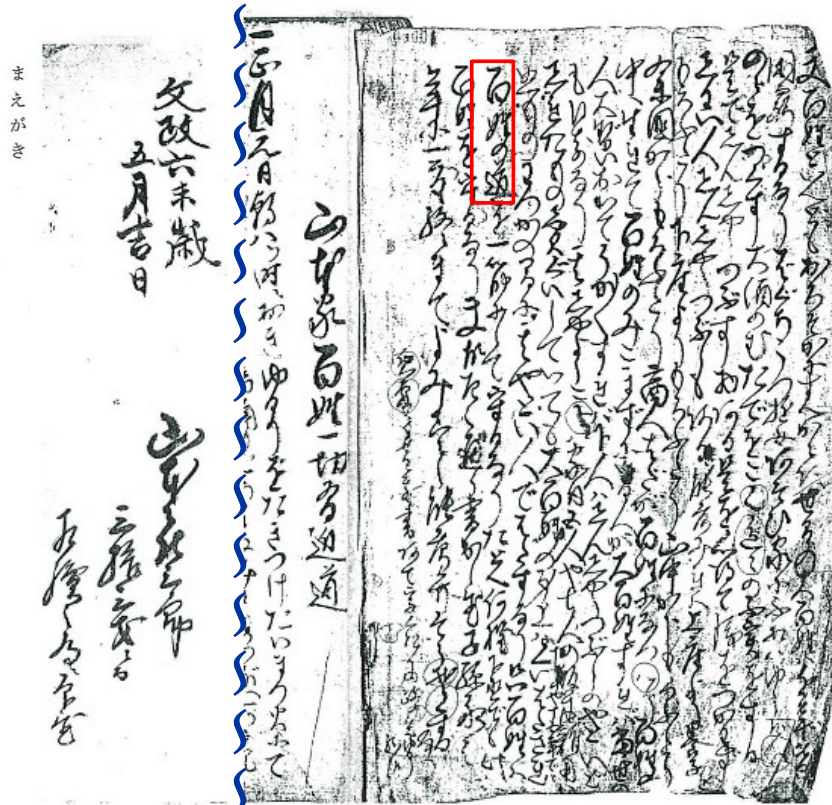


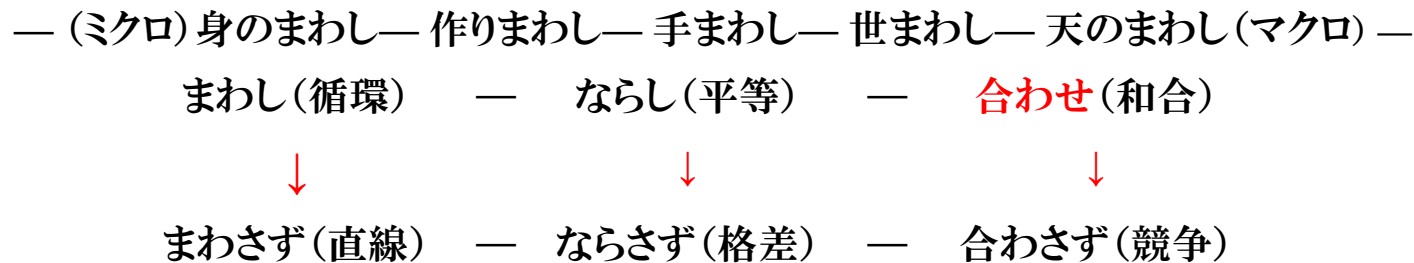
図7 「まわし」の図

(徳永『日本農法の天道』27頁)



(巻末)

(冒頭)

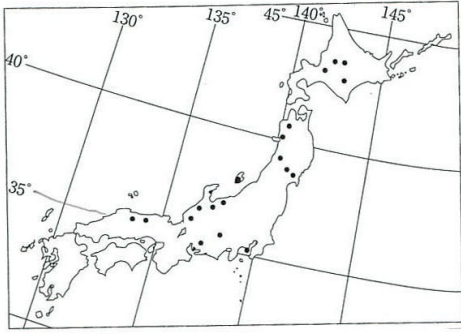
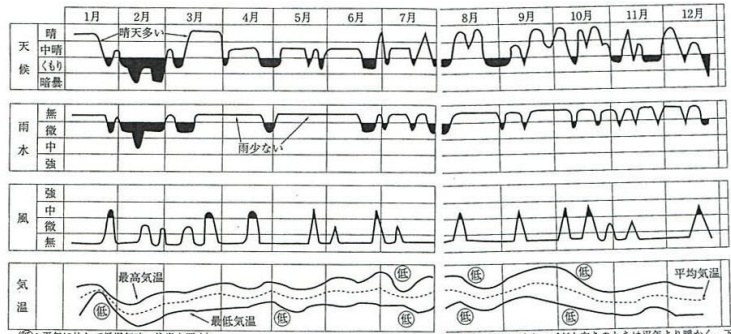


# 江戸農書に見る農民の知恵

近世前期農書の農法

| 農書の性格 | 農業生産   |                   |            |               | 力                             | 労働対象            | 作りまわし                         | 農民の主食糧                               | 経済性                                       | 発展段階          |                       |    |    |
|-------|--------|-------------------|------------|---------------|-------------------------------|-----------------|-------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------|---------------|-----------------------|----|----|
|       | 書名     | 地域                | 時代         | 労働力           |                               |                 |                               |                                      |                                           |               | 労働手段                  |    |    |
|       |        |                   |            | 経営主           |                               |                 |                               |                                      |                                           |               | 労働                    | 土地 | 農具 |
| 親民鑑月集 | 南伊予    | 寛永6~承応3年(1629~54) | 地主手作       | 譜代下人          | 肥力のみが問題                       | 犁耕・鋤耕<br>耕耘の綿密化 | 多肥化<br>自給肥料のみ                 | 品種改良す<br>ずむが種か<br>わり・徒長<br>あり        | 二毛作ある<br>が一毛作中<br>心<br>中稲中心から<br>晩稲へ      | 慢性飢餓          | 自給生産                  |    |    |
| 百姓伝記  | 三河     | 天和元~3年(1681~83)   | 地主手作(小農)   | 年季奉公人(家族労働)   | 主に肥力であるが<br>地力概念が成立<br>土地改良   | 犁耕・鋤耕<br>深耕・綿密化 | 多肥化<br>自給肥料が中心                | 品種改良す<br>ずむが種か<br>わりあり<br>魚肥では徒<br>長 | 二毛作ある<br>が一毛作中<br>心<br>中晩稲                | 潜在飢餓<br>ひる(麦) | 自給生産中<br>商品生産の<br>芽生え |    |    |
| 耕稼春秋  | 金沢近郊   | 宝永4年(1707)        | 地主手作(小農)   | 年季奉公人(家族労働)   | 肥力・地力<br>が問題<br>土地改良          | 犁耕・鋤耕<br>深耕・綿密化 | 多肥化<br>自給肥料に<br>加え油粕等<br>の金肥も | 品種改良す<br>ずみ種か<br>わりなし<br>魚肥では徒<br>長  | 一毛作十二<br>毛作<br>なたねの裏<br>作化<br>野菜の田畑<br>輪換 | 潜在飢餓<br>麦     | 自給生産から<br>商品生産へ       |    |    |
| 農業全書  | 畿内(京都) | 元禄10年(1697)       | 地主手作<br>小農 | 年季奉公人<br>家族労働 | 肥力・地力<br>が問題<br>地改良<br>田畑輪換効果 | 犁耕・鋤耕<br>深耕・綿密化 | 多肥化<br>油粕等に加<br>え干鰯等の<br>金肥も  | 耐肥性品種<br>の改良が<br>すむ                  | 二毛作中心<br>野菜・綿の<br>田畑輪換                    | 麦(米)          | 商品生産が<br>中心           |    |    |

『日本農法の水脈』106・107頁



| 日時   | 天 | 雨 | 風 | 気 | 日時  | 天 | 雨 | 風 | 気 | 日時  | 天 | 雨 | 風 | 気 | 日時  | 天 | 雨 | 風 | 気 |
|------|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|
| 1月6日 | 晴 | 無 | 無 | L | 6日  | 晴 | 無 | 無 | L | 6日  | 晴 | 無 | 無 | L | 6日  | 晴 | 無 | 無 | L |
| 6日   | 晴 | 無 | 無 | L | 12日 | 晴 | 無 | 無 | L | 12日 | 晴 | 無 | 無 | L | 12日 | 晴 | 無 | 無 | L |
| 18日  | 晴 | 無 | 無 | L | 18日 | 晴 | 無 | 無 | L | 18日 | 晴 | 無 | 無 | L | 18日 | 晴 | 無 | 無 | L |
| 24日  | 晴 | 無 | 無 | L | 24日 | 晴 | 無 | 無 | L | 24日 | 晴 | 無 | 無 | L | 24日 | 晴 | 無 | 無 | L |

図2 宮城県一迫町・白鳥文雄

さんの1999年天気予想図

注) 1月6日~2月3日の天候を1日4回記録して(下の表)、それをもとに

年間の天気を予測(上のグラフ)

『日本農法の天道』16,17頁

1999年時点で「寒だめし」をしている地点  
『日本農法の天道』49頁



図4 樹木に伝わる地中の微弱震動とカマキリの卵の高さ(ハイトパターン)

注 新潟県長岡市の酒井與喜夫氏  
『カマキリは大雪を知っていた』  
2003 農文協

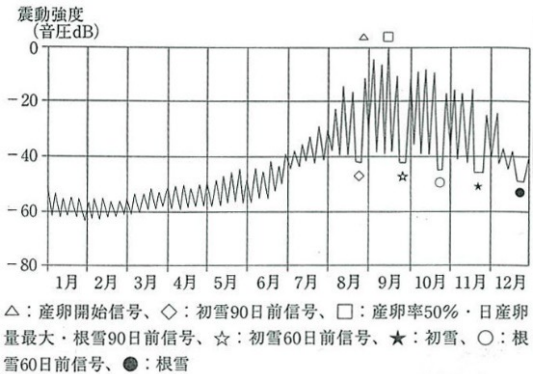


図19 樹木に伝わる地中の微弱な震動(例年)

『日本農法の天道』20,22,73頁

一、寒三十日の刻篋を三百六十日に配当して、翌年の風雨晴曇温涼暖冷を考れば違ふ事なし。予寒中昼夜風雨晴曇を考見申候。在方は時刻分明ならず、しかれ共大略当れり。右古往の伝へを以て氣候を考へ翌年早稲を多くし晩稲を減じ、或は晩稲を増作して早稲を不足にする杯の勘弁にして種籾を用意す。

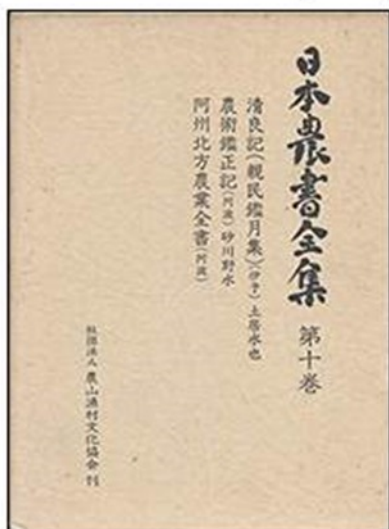
一、寒三十日間の天候の推移や変化を時刻的に記録し、これを一年三百六十日に配分してみて、翌年の風雨、晴曇、温涼、暖冷などを考れば、まず違ふことがない。自分は寒中に昼夜の風雨や晴曇の推移を、翌年の実際の天候の経過に当てはめてみた。こまかな時刻までははつきりしないが、大体は当たっていた。

このような昔からの言い伝えを総合して氣候を考へ、翌年の品種に早稲を多くして晩稲を減らすとか、あるいは晩稲の作付けを増して早稲を不足にするなどのことを決めなければならぬ。そして具体的な種籾の選定や準備をすすめるのである。

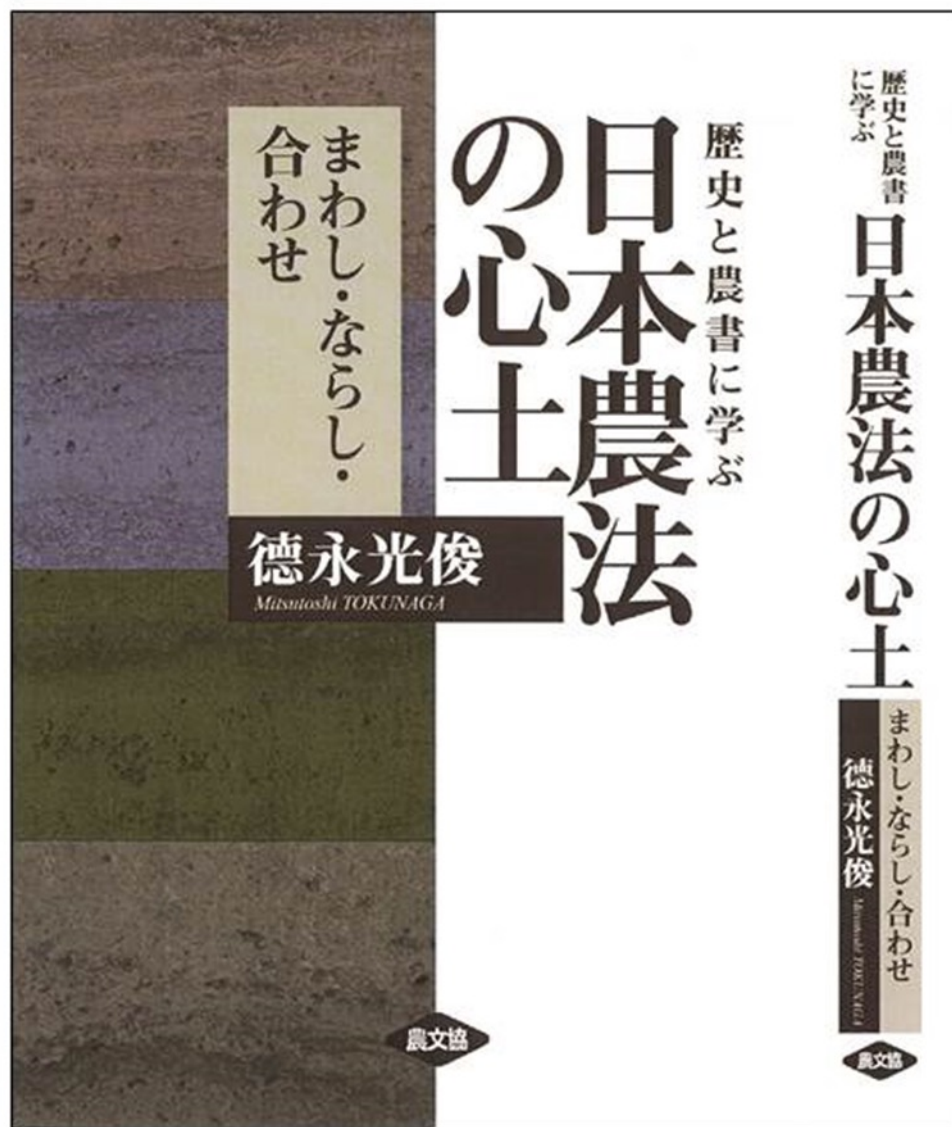
# 徳永の主な著作一覧



(1997)



(1980)



(2019)



(1996)



(2000)

建学の精神:「自由と融和」

教学の理念:「人間的実学」

目標は、商都大阪の原動力になる

黒正イズム 「経済＝経世済民」

- 「道理貫天地」 道理は天地を貫く
- 「研学修道」 学問を研鑽して道理を修める
- 「4つの眼」 鳥の眼・虫の眼・魚の眼・こころの眼

(徳永の解釈)

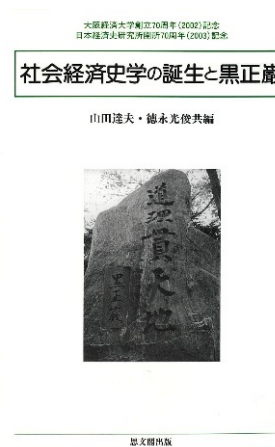
(国際性) (現場尊重) (先見性) (利他の精神)



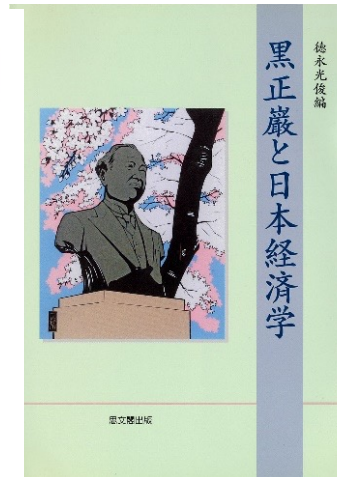
# 初代学長黒正巖博士(京大農史講座初代教授)の教えを受け継ぐ



『黒正巖著作集』全7巻(2002 思文閣出版)



2つの研究書(2001、2005 思文閣出版)



高田明さん(ジャパネットたかた創業者/卒業生)に「新入生特殊講義」でお話いただく(2014. 6. 25)



「おかげ」さまから「ひかり」へ

「野風草だより」をご愛読いただき、ありがとうございます。2010年12月から始めて1年半ほどの間に、学内のイベントや出来事、私の教育に対する考え方や生き方などを書き連ねて、233回の記事を書いてまいりました。2012年6月末段階で、トップページへのアクセスが計8万回弱、各ページへのアクセスが総計6万3千回となりました。お読みいただいた皆さまに、心から御礼申し上げます。7月から大学のホームページがリニューアルされ、それに伴いこの「野風草だより」も以前とは雰囲気が変わりました。今後とも変わらぬご愛読をお願いする次第です。



学長ブログ「野風草だより」(2010. 12~2019. 3まで) 904回発行

No.903 2019年3月18日(月)

## 学長退任の慰労会

いよいよ、学長退任のカウントダウンとなりました。この日は、崎田常務理事、小谷副学長、山本俊新学長が発起人となり、教職員に呼びかけていただきました。60人ほどの専任教職員、準職員に加えて、藤本理事長にもおいでいただきました。ありがたいことでした。

学長在任の8年5ヶ月をふり返ってみますと、やはり教学のトップとしての重圧がありました。100Kgの荷物を背負っていたとすれば、12月に山本新学長が選ばれて30Kgに一挙に軽くなりました。今はもう10Kgくらいでしょうか。この間、病氣や体調不良で会議を休んだことは、一度もありませんでした。やはり緊張してたからでしょうか。4月以降、寝込んでしまうのかもかもしれません・・・

2018年度では、会議や打ち合わせ、学内外の方々との会食、クラブの応援、東京などへの出張、外国訪問などいわゆる「校務」は、4月は14日間、5月は18日間、6月は20日間・・・といった調子で1年では186日間ありました。1年のおよそ半分ですね。そ

## 光俊学長 慰労会



# 学生たちが大学の主人公(ぶれない、逃げない、うつむかない)

さまざまなイベントで活躍した学生たちと



2017.2 入学前教育 入学予定者と在学生の交流



2017.8 オープンキャンパス 学生スタッフ



2017.10 1年生有志によるイベント企画 無人島旅行



2017.7 留学生 セタパーティー



2017.9 鈴鹿モビリティランドでのPBLプレゼン



2017.8 高松での準硬式野球部 全国大会ベスト4



2017.8 東経大での三大学交流 ハンドボール部、ESS



2016.2 キッズカレッジでのバスケットボール

徳永ゼミの学生たちと 31期650名



2年生 2015.11.4  
ボーリング (淡路ラウンド1)



2年生 2015.11.11  
ポッキーチョコの日 (J46教室)



2年生 2015.12.12~13  
ゼミ旅行 (城崎温泉・ゆとうや)



2年生 2015.12.16  
私の誕生日祝い (J46教室)



3年生 2016.11.20~21  
就職合宿 (京都・桂エミナス)



3年生 2016.12.21  
私の誕生日祝い・たこバ (研究室)



4年生 2017.11.9  
卒業アルバム (学長室)



4年生 2018.1.14~16  
卒業旅行 (サッポロビール園)

(2018年3月卒業 第29期生)



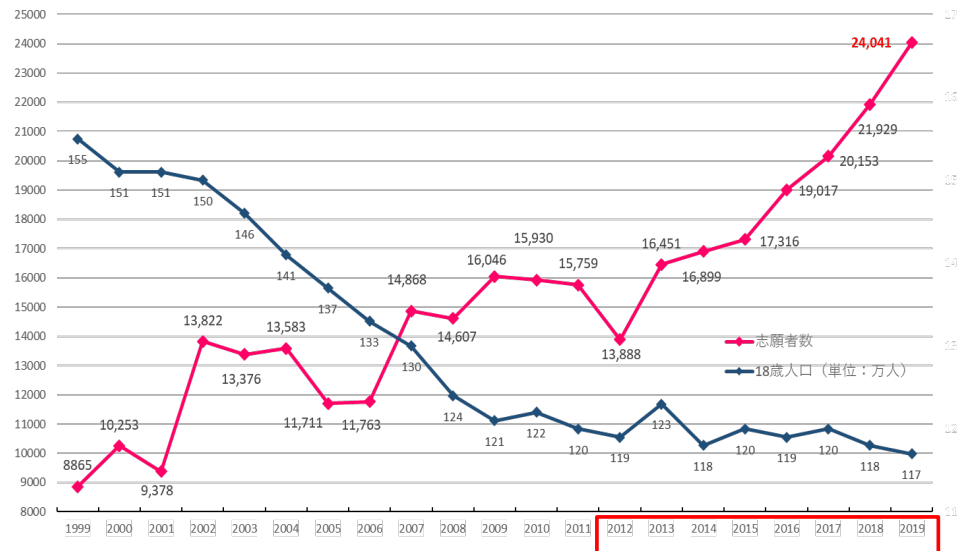
(2010.11 ゼミ同窓会「野風草会」)

野風草のよう  
にいきいきと  
たくましく  
たくましく

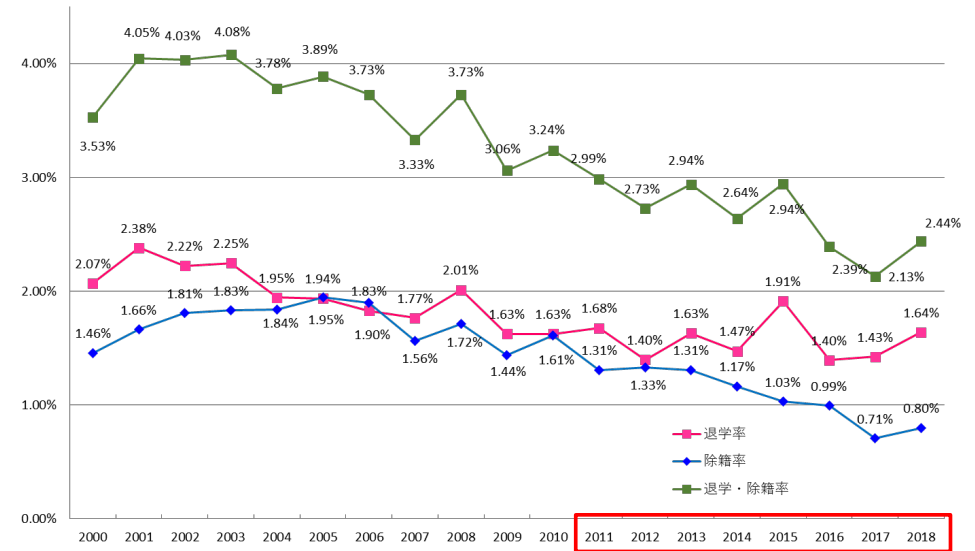


# 学長在任中の実績 大阪経済大学の動向・データ

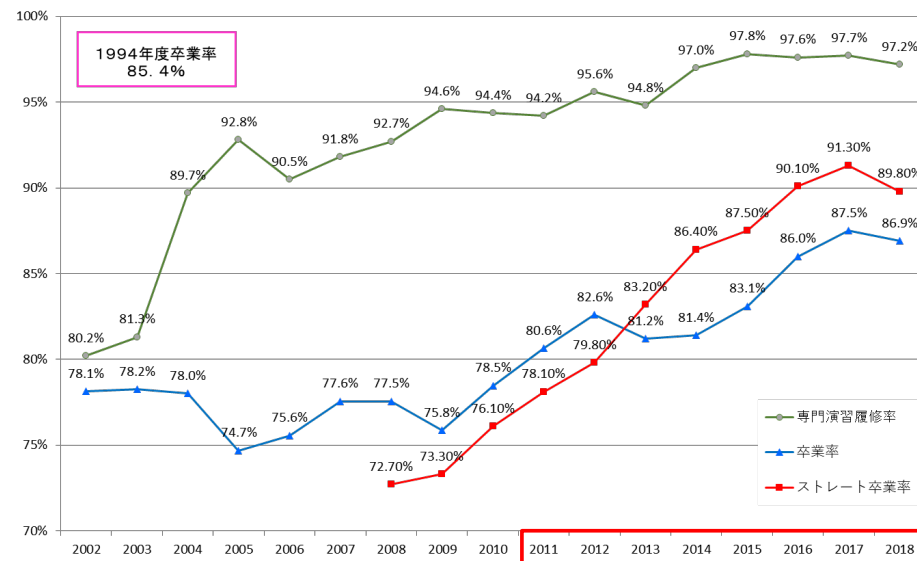
## 志願者数



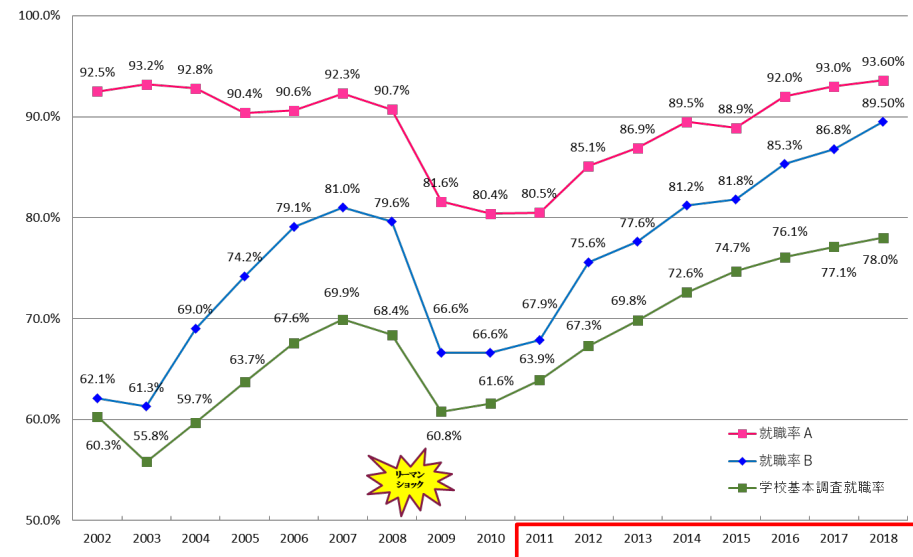
## 退学率・除籍率



## 専門演習履修率・卒業率・ストレート卒業率



## 就職率



## 徳永の教育哲学

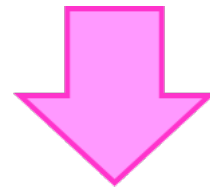
中規模・中堅大学として、学生たちの自発的な伸びる力をいかに育てるか

「ゼミの大経大・マナーの大経大・就職の大経大」

(しっかりもん)

(あったかもん)

(やんちゃもん)

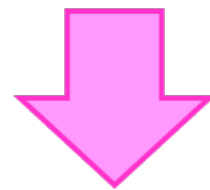


「大経大プライド・大経大プロフェッショナル・大経大ファミリー」

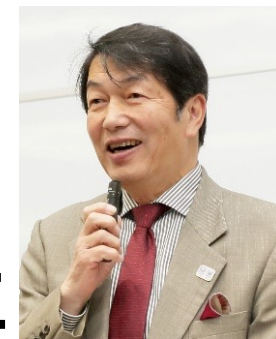
(満足度No.1)

(達成度No.1)

(つながる力。No.1)



「大経大スタイル」の確立



「そっと手を添え、じっと待つ」「おかげさま・おたがいさま」

# 第4章 生きもの循環論から見る農法論

「日本」「農法史」を「私」の生き方として考えていく。

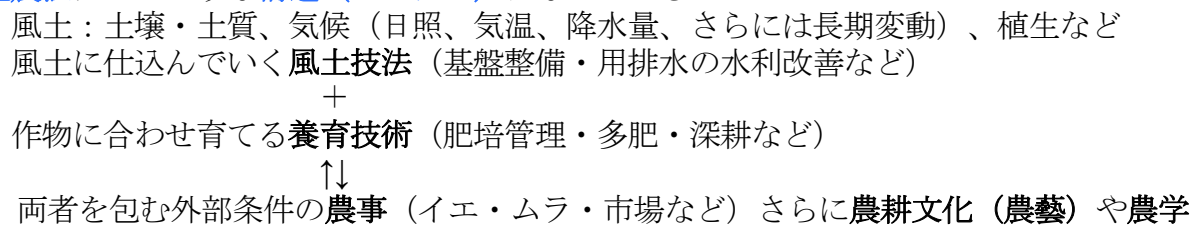
- 1985年 内田義彦『読書と社会科学』（1985 岩波新書）、同『作品としての社会科学』（1981 岩波書店）
- 1988年 宮本常一『忘れられた日本人』（1984）、同『庶民の発見』（1987）、同『家郷の訓』（1984）
- 1988年 守田志郎『農業にとって技術とはなにか』（1976 のち1994 農文協）
- 1988年 阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』（1988 ちくまプリマーブックス）
- 1991年 栗原 浩『風土と環境』（1988 農文協）
- 2000年 上田閑照『私とは何か』（2000 岩波新書）
- 2019年 本川達雄『生きものとは何か』（2019 ちくまプリマー新書）、同『生物学的文明論』（2011 新潮新書）

「生きもの循環論」とは何か？「自発性をもつ生きものたちが協働＝相互扶助しながら、食べて食べられてまわる食物連鎖によって、生きものたちすべてが個と種の再生産を目的として持続し循環していくことである。「おかげさま・おたがいさま」である。

「農法」とは何か？「農法は、狭義の農法（農業技術体系）と広義の農法とに区別される。農業は工業と違い、生きものたちどうしがつながり、協働によりながら『待つ』ことにより、生きる喜びを共に実現するが、同時に人類を含めた生きものたちの重労働による共苦によって成り立つのが農業である。そして人類はその成果物である他種の『いのち』を奪う、殺すことによって、人類の個と種の再生産が可能となる。この人類のみがもつ『痛み』の自覚。これこそが、人類としていつも自覚して忘れてはならない則＝法、広義の農法の核心ではないか。「いただきます・ごちそうさま」である。

「生きもの循環による広義の農法」とは何か？「地域の風土によってそれぞれ異なる自然的・経済的条件により、在地の農民たちによって歴史的に形成された、立地生態均衡系の『在地農法』である。それは農家の生存と生産、生活が一体となったものである」。

在地農法はどのような構造（システム）になっているのか？

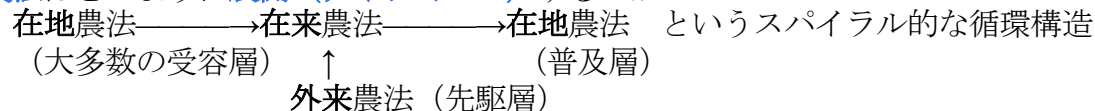


門脇栄悦・忠教さん親子  
(山形・スイカ農家)



堀内金義さんご夫婦  
(奈良・トマト農家)

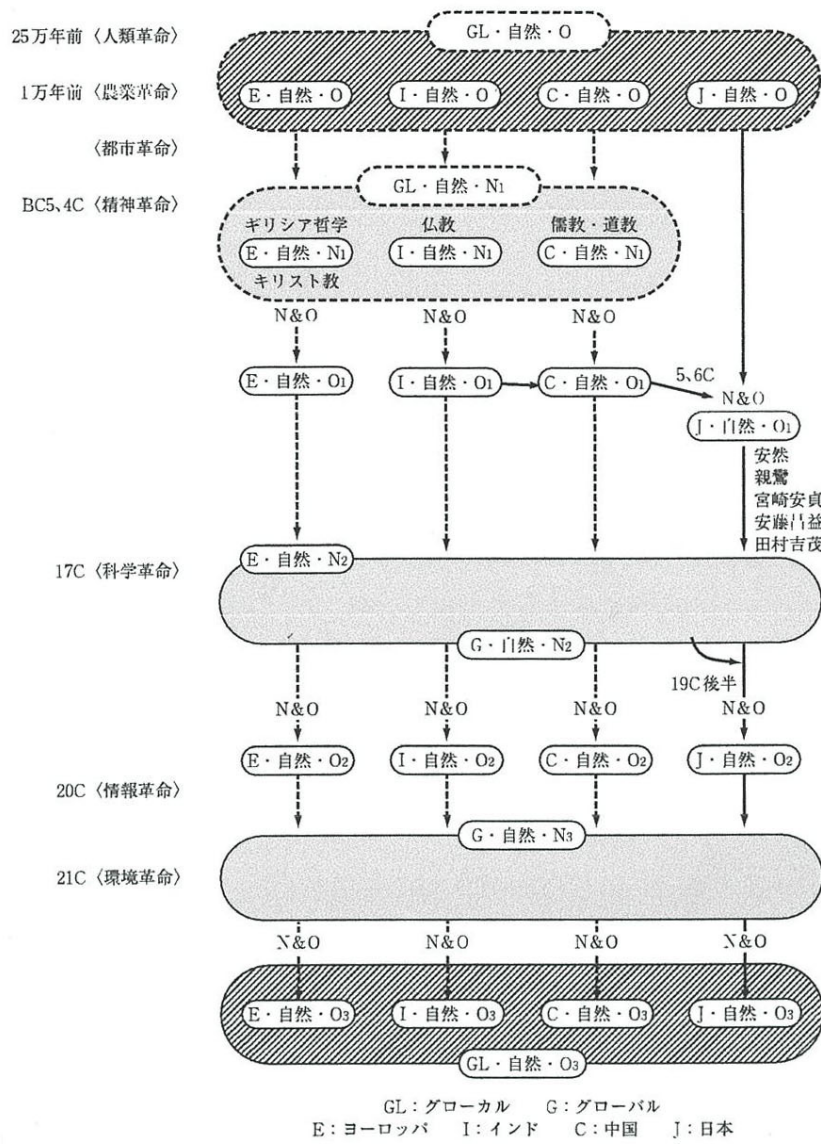
在地農法はどのように展開（ダイナミズム）するのか？



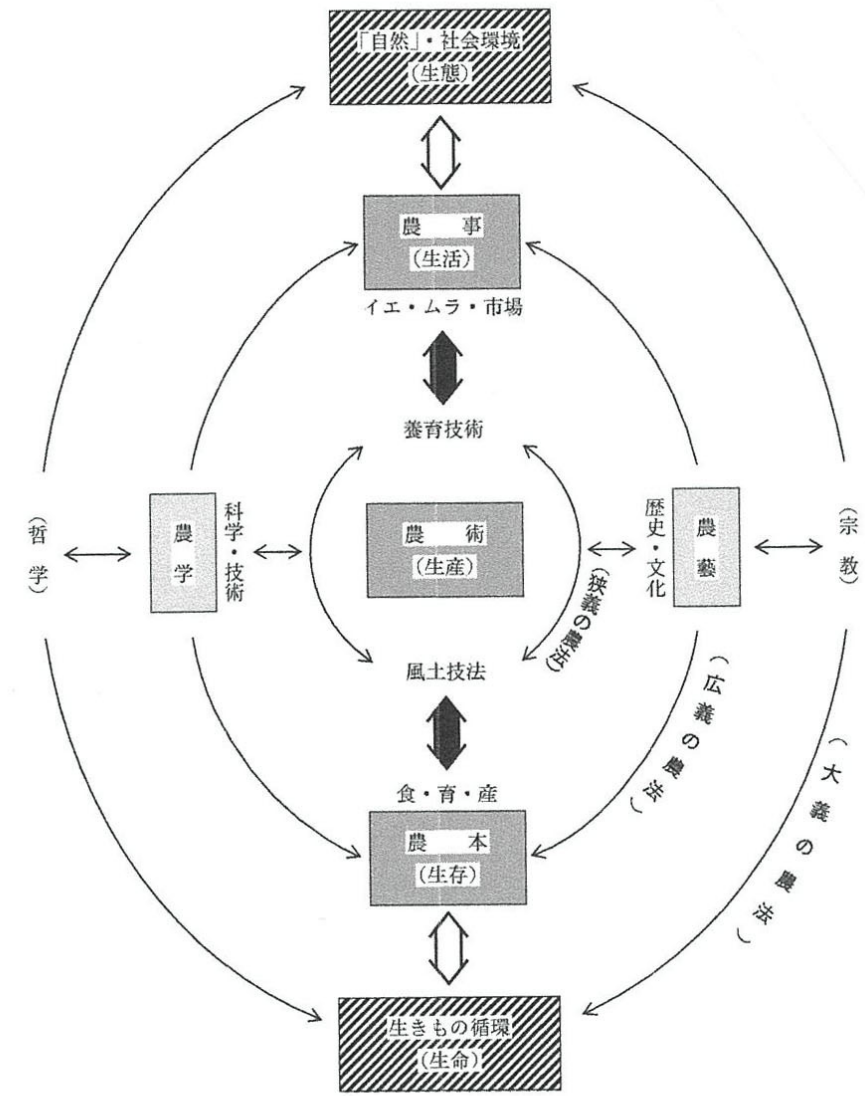
「狭義・広義・大義の農法」とは何か？「生きもの循環論」をふまえて、食・育・産の「生存」していく上での根本である「農本」を加えて修正。さらに広義の農法の根底的な基盤、包み込むものとして「生きもの循環（生命）」、「『自然』・社会環境（生態）」を含めた「大義の農法」を新たに考える。「自然」は安藤昌益の言う「ひとりする」である。

狭義と広義の農法の基本原理は、大和農法や江戸農書から私が導きだした「まわし（循環）・ならし（平準）・合わせ（和合）」。  
狭義と広義の農法の根本をまわす大義の農法の基本原理は、「おかげさま・おたがいさま」、「いただきます・ごちそうさま」。

# 世界・日本の自然観の移り変わり／狭義・広義・大義の農法



●世界・日本の自然観の移り変わり



第1図 狭義・広義・大義の農法

# 戦後の農法論研究の比較検討

第2表 戦後の農法論研究の比較検討 (徳永作成)

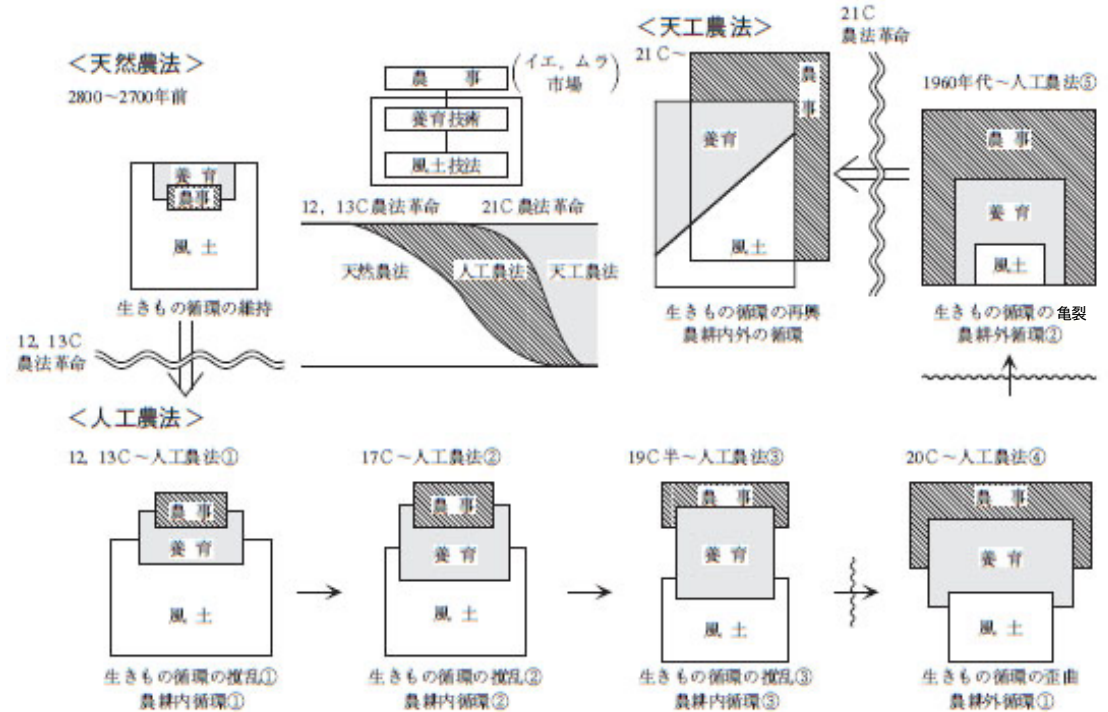
|    | 加用信文<br>(ヨーロッパ畑作)      | 飯沼二郎<br>(ユーラシア・天水)                | 磯辺俊彦 | 守田志郎         | 金沢夏樹<br>(アジア・日本稲作)  | 田中耕司                       | 嵐 嘉一<br>(日本稲作)      | 徳永光俊<br>(日本列島農法)    |            |
|----|------------------------|-----------------------------------|------|--------------|---------------------|----------------------------|---------------------|---------------------|------------|
| 自然 | ×                      | 乾 湿<br>(年・夏雨量, 気温)                |      |              |                     | 立 地<br>(気候・地形)<br>(用排水の有無) | 立地<br>生態均衡系<br>自然立地 | 自発的運動               | 「自然」       |
| 技術 | ×                      | ×                                 |      |              |                     | 立地<br>5 類型<br>立地           | 乾田化                 | 風土技法<br>(土地基盤)      | 農術         |
|    | ・地力維持<br>・雑草防除<br>世界共通 | 休 閑<br>・保水 中耕<br>・除草<br>4 類 型     |      | 技術<br>農法     | 肥料の論理<br>(農学的・労働対象) | 立地<br>形成型<br>(工学的適応)       | 多肥化<br>品種           | (狭義の農法)             |            |
|    | 労働手段                   | 労働手段                              | 技術変革 |              | 機械の論理<br>(工学的・労働手段) | 立地<br>適応型<br>(農学的適応)       | 肥培管理                | 養育技術<br>(多肥・労働対象)   |            |
| 社会 | ヨーロッパ<br>農業革命          | ヨーロッパ<br>農業革命<br>日本<br>(挫折した農業革命) | 社会変革 | 生産<br>生活     | 日本<br>明治農法(学)       | 日本<br>多毛作体系                | 経営立地                | 作付方式<br>(作付順序+作付割合) | 農事         |
| 農民 | ×                      | ×                                 | 変革主体 | 農業は<br>農業である | 下からの新しい<br>農民形成     | (集約性・技能性・<br>平準性)          |                     | (まわし・ならし・<br>合わせ)   | 農本         |
|    | 西欧に基く<br>近代化           | 伝統に基く<br>近代化                      | 農法変革 |              | アジア<br>緑の革命         | 個体農法                       | 農業慣行                | 在地農法                | 生きもの<br>循環 |
|    |                        |                                   |      | 主客合一         |                     |                            |                     | 農法革命<br>大義の農法       |            |

# 生きもの循環論から見る日本列島農法史の段階と類型

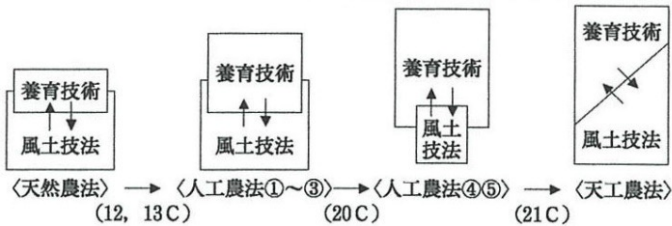
第2図 日本農法史の見取り図

|             |                                            |                   |
|-------------|--------------------------------------------|-------------------|
| 7000~6000年前 | 穀物や豆類の半栽培・栽培                               |                   |
| 4000年前      | イネ他の植物栽培の比重高まる                             |                   |
|             | まわし(循環)・ならし(平準)・合わせ(和合)の日本農法               |                   |
|             | 生きもの循環の維持                                  | 自然の日本農法           |
| 農耕開始        | 冬季灌水 無肥料 無農薬 不耕起                           |                   |
| 2800~2700年前 | 水稻農耕の伝来                                    | 天然農法              |
| 12・13C      | 生きもの循環の維持から攪乱へ                             | 農法革命              |
|             | 外延的拡大(水稻農耕の普及 開田 12C 二毛作の開始 14C 大唐米) 籾桶の出現 | 日本農法の自覚化          |
|             | 生きもの循環を攪乱しながらも維持                           |                   |
| 14C         | 乾田化・湿田の熟田化(基盤整備)⇒多肥化(増収)⇒深耕化(安定)           |                   |
|             | 外延的拡大は、まだ続く                                | 人工農法①             |
| 17C         | 太閤検地 幕藩体制 開発資源限界                           | 中国陰陽思想 近世農学       |
|             | 内包的発展への転換 小農家族集約多毛作農法                      | 人工農法②             |
| 19C半ば       | 近代国民国家・資本主義                                | 欧米近代科学 近代農学       |
|             | 地租改正                                       | 人工農法③             |
| 20C         | 硫安 ボルドー液 動力ポンプ                             | 人工農法④             |
|             | 生きもの循環の歪曲                                  | 民間農法 反・人工農法④      |
| 1945        | 農地改革                                       |                   |
|             | アメリカの農業戦略                                  | 日本農法からの逸脱         |
| 1960年代~     | 施設化・化学肥料・化学農薬・機械化                          | 人工農法⑤ 現代農学        |
|             | 生きもの循環の亀裂                                  |                   |
| 1980年代~     | グローバル世界 地球環境・資源問題                          | 自然農法・有機農業 反・人工農法⑤ |
|             | バイオテクノロジー技術(超・人工農法)                        | (低投入・内部循環・自然共生)   |
|             | 生きもの循環の破壊から再興へ                             | 農法革命              |
| 21C         | まわし(循環)・ならし(平準)・合わせ(和合)の日本農法               | 日本農法の再興           |
|             | 天然農法と人工農法の統合としての天工農法                       | 反科学でない新農学         |

第3図 生きもの循環論からみる日本農法史



(徳永『大阪経大論集』第71巻2号5頁)



(徳永『日本農法の心土』117頁)

## 日本列島農法史の類型 (案)



西南暖地・水田多毛作(大和農法)

九州中南部・畑作

南西諸島・畑作  
(琉球文化)

(アイヌ文化)

北海道・開拓畑作+畜産

東北寒地・水田稲単作(庄内農法)

関東・東山・畑作+養蚕



(徳永『大阪経大論集』第71巻6号232頁を改変)

現れよ。森羅の生命  
木彫家 藤戸竹喜の世界

大和の「農耕絵馬」(1890 大和高田市曾大根・曾弥神社所蔵)



庄内の「農耕四季図屏風」(明治初期カ市原円潭作 酒田市立資料館所蔵)





# 熊代幸雄の比較農法論・ユーラシア農法史、とくに生命意識

## 忘れられた農法論

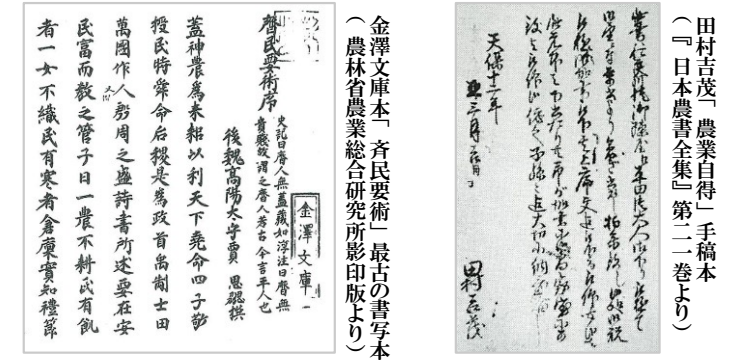
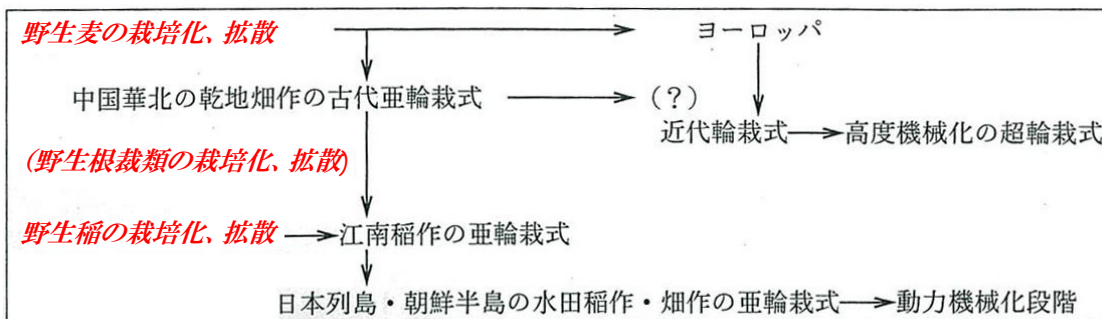
津谷好人は2008年に、「昭和40年代頃までは農業経営研究において農法論という領域が大きなポジションを占めていたが、今日では全くこれを論じる研究者がみられなくなってしまった」、そして「農学の原点に立ち返ってみる必要性を強調」している（『農業経営研究』第46巻3号）。

高橋正郎は2014年に、『日本農業における企業者活動』（農林統計出版）で、上記の津谷論文を紹介し、東畑・金沢理論をふまえた自ら考える農業経営学の三つの柱のうち「農学的技術環境」に対応したものとして「農学的技術論」の重要性を主張している（同書283頁）。

## 熊代比較農法論の幅広さと奥深さ

- ・中国・戦前の華北農村の調査経験、西山武一との古農書『齊民要術』の校註・訳 西山・錦織英夫・渡辺兵力・鞍田純らと北京グループ
- ・日本・江戸農書「農業自得」の校註、戦後の農山村の調査 ※小出満二を通じてハーンの影響
- ・ヨーロッパ・ドイツ農業経営学の紹介・翻訳、戦後の農業機械銀行(マシーネン・リング)の紹介普及 加用信文らと「農法研究会」

## 熊代比較農法論のユーラシア農法史



小島麗逸・熊代編『中国農法の展開』（1977アジア経済出版会）14～15頁では、Paul Leserの本を引用紹介して（1931 Entstehung und Verbreitung des Pfluges）、18世紀のヨーロッパ農業の変化の動因は、それ以前の東アジア（中国犁）の伝来にあるのではと推測。

## 熊代比較農法論の体系

生命意識（農業倫理） ↔ 鋤や犁の耕具類 ↔ 農業技術体系 ↔ 衣食住などの文化財

「生命意識」 Lebensbewusstsein これが今まで見逃されてきた熊代比較農法論のポイント

西山武一は書評（『農林図書資料月報』第69巻8号 1969）で、『比較農法論』（1969 御茶の水書房）の生命意識の29～34頁を部分的に抜き書きして、「これが前、後編七〇〇頁の総帰結であり、著者の農学原論であろう」。

「有機的生命の保護・育成を通じてえられた「生命意識 Lebensbewusstsein」が農業倫理として帰結され、それが生命ある有機体を取りあつかうという大多数の住民の奉仕と義務で結ばれて社会的・経済的カテゴリーと渾然一体化していた。したがって農業技術には、無機物に対するとは異なった倫理的限界が社会的に形成されていた。これが産業時代における産業倫理と異なる」（同書30頁）

「伝統農業の営農原則は父祖伝来の鉄則とみられるもので貫かれるからである。そこには、有機的生命体の保護・育成で会得される生命意識が農耕民族の独自の世界像を形成する。タロイも栽培民の犠牲供養神、穀物栽培民の穀霊・天神、さらには仏、道、儒、回教のおよび聖書の豊穰神の信仰の表象に、これを見る。・・・有用動植物の持続的確保の厳密な技術的規定は、農耕儀礼や月令の倫理規定として労働の「季節リズム」を構成し、この作業連鎖はしばしば祭事の環、歌と踊りが挿入される。収穫豊穰を祈念するこうした内面的参与は農業倫理として帰結され、営農はもとより生活リズムを規制する渾然たる文化が構成される。」（同書10～11頁）

北アメリカとは異なり、日本では旧来の農業制度（小農制）に農業技術進歩が適応する方向で、極度に高い土地生産性（物量）が実現する。日本の農法では有機技術（有機的生命体の生育力とその条件を直接向上する土地節約的技術が主である）の進歩の方向をもつ。

# 農民たちが農法の主人公(農学はサポート)

下野の田村吉茂『農業自得』「此理ハ、人ハ首を上ニシ、禽獸ハ首を横、諸作諸草木ハ首を下にして、土中に根入る。夫々に異れども、皆陰陽和合の気を以生長」（『日本農書全集』第21巻87頁）

安藤昌益「人ハ、活真通気ニシテ、直耕シテ食衣備ハルナリ。活真、横気ニ回りテ四類ヲ生ジ、四類ノ大小互食スル、乃チ互性ノ直耕ナリ。活真、逆気ニ回りテ草木ヲ生ジ、草木ノ逆気ヲ食フハ、乃チ草木ノ直耕ナリ」（『安藤昌益全集』第1巻83頁）

大蔵永常『農稼肥培論』（天保年間）、「人と草木ともに、飲食と肥との相違のみにして、其精気を吸取て身を養ふ理ハ一なり。然し人及畜類ハ動きはたらくもの故、口ありて其肥を取、胃の中にたくハへ置、腸の内を通る間に其精気を吸上る也。草木ハ動き廻る物に非レハ、水・土を飲食とし、根を以土に含ミある味ひを吸上る也。故に人ハ根を腸の内にとりこミたる也。草木は胃腸を身の外に出したるにて、其理ハかハる事なし」、と述べている(『日本農書全集』第69巻77頁)。

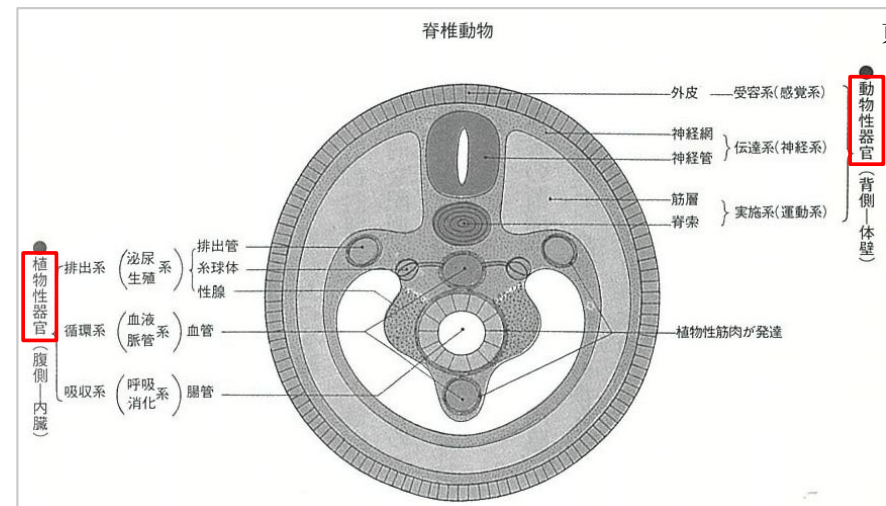
河内・木下清左衛門・『家業伝』（1842）「諸草木作ル心持ハ、吾身ト品ヲ同スヘシ。有情<人の事也>、非情<草木之事也>。違ハアレ共、全陰陽之二気ニヨリテ、人モ草木モ生命ヲ保ニ候ハ、別ニカハリシ事ナシ・・・利之必法人ト相同シ、畢竟人之口ハ上ニ有リ、諸草木之口者下ニ有ル計リ之事ニ候」（同第8巻219頁）。

今西錦司は言う。「消化管の管内といふものは考へようによつては外界がわれわれの身体にまで入り込んである部分であり、環境の延長とも考へられる。生物は完結体だなどといつてもその身体はこういう意味で、その身体の中にちゃんと環境を担ひこんでいるのである」（『生物の世界』62頁 1940 弘文堂、講談社学術文庫61頁）。

現代の解剖学者・発生学者で自然哲学者の三木成夫「植物のからだは、動物の腸管を引き抜いて裏返しにしたものだ。根毛は露出した腸内の絨毛となって、大気と大地にからだを開放して、完全に交流しあう。両者のあいだに生物学的な境界線はない」（『胎児の世界』192頁 1983 中公新書）。植物の根毛と腸の絨毛、土壌中の細菌と腸内の細菌の同質性、ゲーテの形態論

アリストテレス 植物と動物の「両者は宇宙に関する位置は違うが、機能という点では同じである。なぜなら、植物では根が上部であり、そこから養分が生育する部分へ配分されるし、動物が口で食物をとるように根で養分をとるからである。」（『アリストテレス全集』第9巻44頁 1969 岩波書店）

Jethro Tull「植物には、動物であれば食物を運ぶのに必要な胃や食道がない。動物では乳糜によって消化され尽くした食物は排泄物として排泄される。ところが植物の消化管、すなわち根は、土を食物にしているが、それらの植物はただ落葉というわずかな廃物を残すだけである。」（"The Horse-Hoing Husbandry" 1733 London p.4 田中洋介「金沢アグロノミックスと水田農業」より 『金沢農業経営学とその展開』166頁 2011 龍溪書舎）



熊代の比較農法論体系において「生命意識」「文化財」とは、これらに見る植物と動物に共通する構造の同質性ではなかったか。中国の古農書『齊民要術』の農業技術から料理にわたる世界、日本の江戸農書である田村吉茂の『農業自得』のすぐれた観察、そしてイギリスのタルの『馬糞農法』を読みながら、感じ取っていたのではないかと推測する。中尾佐助の「タネから胃袋まで」の農・食の世界である。他の農法論においては、耕具類や農業技術体系しか論じていなかった。実(植物) = 身(動物)のまわし、そして地上の循環だけではなく、地中の循環である「根まわし」、まで世界を広げる必要があるのではないか。

— (ミクロ)根まわし — 実 = 身のまわし — 食べまわし —  
 作りまわし — 手まわし — 世まわし — 天のまわし(マクロ) —

私は大和農法を実証的に研究し、守田志郎から学んだ「作りまわし・作りならし」を考えた。さらに江戸農書を読みながら、「合わせ」を付け加えた。ごく最近では、それまでの農法論の限界を越えるべく「生きもの循環論」を根底において「食べまわし」の重要性に気付いた。

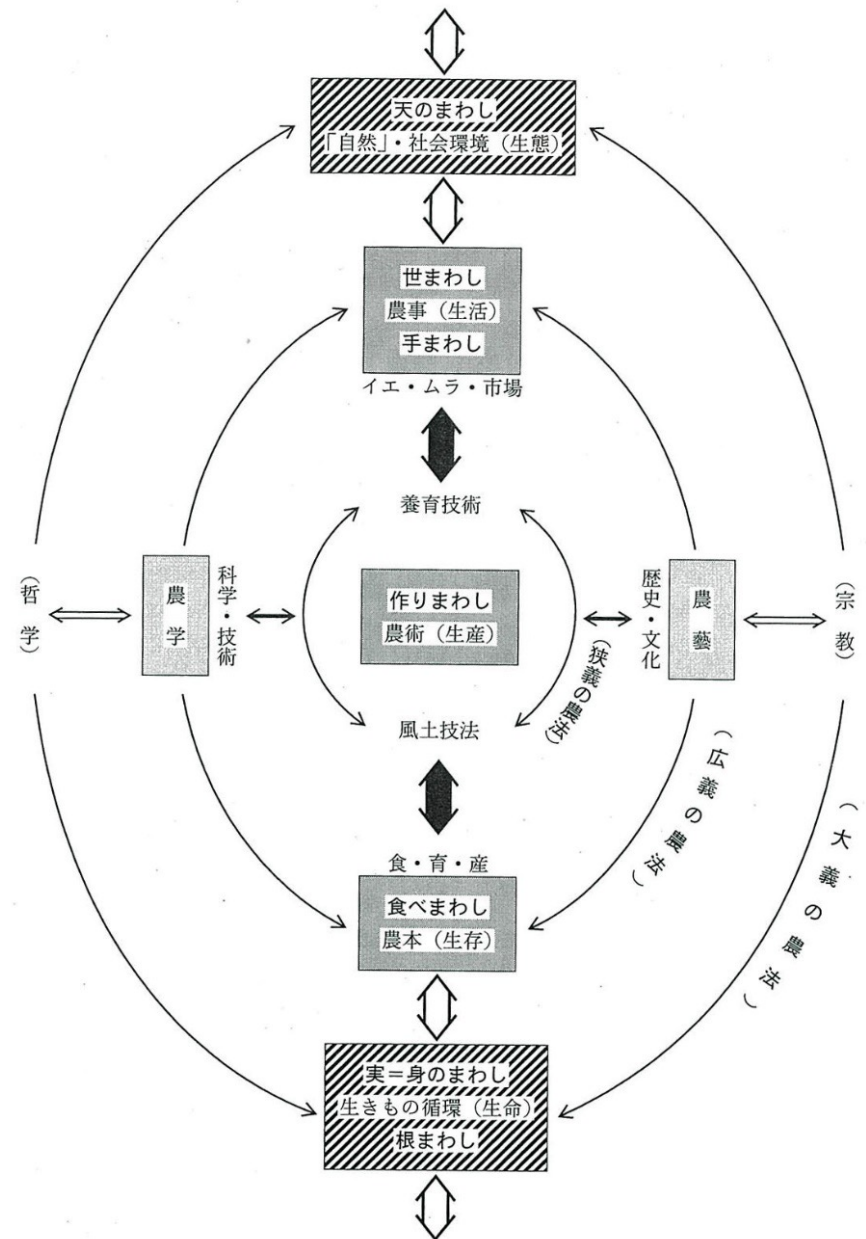
こうして「まわし(循環)」を軸に45年間考え続けてきたわけであるが、熊代比較農法論を検討し新たに展開するのが、「実(植物) = 身(動物)のまわし」と「根まわし」である。守田志郎は1976年に『農業にとって技術とはなにか』で、作りまわしにおける残根の意味を土作りとの関りで、すでに述べていた。まことに「蚯蚓」のような歩みではある・・・

— 天のまわし (マクロ) —  
 — 食べまわし — 作りまわし — 手まわし — 世まわし —  
 — (ミクロ) 根まわし — 実 = 身のまわし —

こうした一連の「まわし(循環)」の世界を、狭義・広義・大義の農法と関わらせてまとめると以下ようになる。「天・人・地」の三層の世界である。安藤昌益は言う。「転定(=天地)ノ呼吸ハ 歎(=人)ノ呼吸ナリ、歎ノ呼吸ハ 転定ノ呼吸ナリ」(『安藤昌益全集』第11巻144頁)。天・地と人、生きものの「生き(=息)まわし」。これまで私が「生きもの循環論」と述べてきたことは、「**生きまわしの農法**」と呼ぶのがふさわしい。

日本列島の風土と歴史に根差した、日本列島の農民たちが何千年にもわたる農事経験から生み出した、まさに日本農学原論、「農学の原点」である。根底における「生命意識」は大同小異だとしても、そこから紡ぎ出されてきた農業技術体系、さらには農学の体系は、ヨーロッパとも違う、東アジアといえども中国とも違う、日本列島独自のものがあるのかもしれない。

これに基づいて日本列島に農法論を現代に甦らせることが出来る。二一世紀における「農法革命」による「天工農法」の実現である。熊代幸雄が言う「生命意識」=農業倫理=農業哲学の日本列島版の再興である。



第4図 「生きまわし」の日本列島農法 (徳永作図)

## 守田志郎の『農業は農業である』の驚き(1971)と輝き(2021)

「農業は農業である」＝「農業は環境調整的であり、工業は直接的な加工・製造である」。  
「農業は農業である」＝「農業は時間的分業、空間を時間化。工業は空間的分業、時間を空間化」  
するはずだの農民層分解論と日本がふっ飛んでいる共同体論を拒んだ守田村落論の核心は、  
「部落が約束するものは、最大多数の最大幸福ではなく、全員の中位の幸福なのである」

『農法』(1972)「作物や家畜の、生産と繁殖の過程での自然のいとなみや大小のうねりの中に身を置いて『待つ』ことのできる体質・・・『待つ』ことを静かに耐え、乱れない呼吸を続ける、それができる人によってのみ農業というものが存在しうるのである」。「農家の人たちの生活における呼吸の、息をはくことが作業にあたるとすれば、『吸』にあたる『待つ』の行為」は、「稲が育ちやすいように田を作り、色々のことをととのえる。良くも悪くも、稲は自分で育つのである。農家の人たちが稲をこね上げて造るのではない」。

1785三河「農業時の栞」：「百姓ハ時節を待が第一なり」、1873下野「吉茂遺訓」：「時節を心長に待つ」。  
『小農はなぜ強いのか』(1975)土の農業を守るには、農家の人の生活と田畑や山での作物や家畜や蚕の成育との間の循環、作物相互の間の循環、耕地と耕地以外の要素との間の循環、この三つの農業的循環が互いに結びつくことが必要。農村は、三つの農業的循環を包み込む器、循環を結びつける軸。守田のそれまでの二つの柱であった農法論と村落論が、「自然の環” 部落”」で結合

### 農民の「チエ」を広げる

守田は伝統的な作りまわしの例として、五～七年周期でまわってくる水田作における蚕豆の作付けを紹介した。それに西南暖地の佐賀クリク農業を知る田中洋介は、蚕豆を一定比率入れた水田の作付順序は、まさに当時の農民の「チエ」の所産だが、蚕豆跡代かき作業に従事した農民たちには、蚕豆の刈株が足にささる痛い思いをしなければならなかった。第三者からは立派なチエとみえるものも当事者たちは苦痛を我慢して実行してきたのである。田中は農民の「チエ」の結晶や「農法の精髓」であったとしても、それらはまさに「残酷な重労働」に支えられたもの。それらから解放され、増収や除草・防除効果があるものなら使用した(『農業協同組合』1974年6月号)。

細谷昂ら東北大学農村社会学グループは東北寒地の庄内農村を1961年以来半世紀近く調査し、人力による本田荒起しは実に骨の折れたもので、泥が身体にかかって全身「泥人形」のようになった。明治中期の「乾田馬耕」はそれを幾分かでも軽減したが、それでも重労働であった。昭和30年代からの中型機械化一貫体系は、この重労働から解放した。DDTやBHCなどの除草剤は「四つんばい農業」から解放し、作業的には一番楽になった。(細谷昂『庄内稲作の歴史社会学』2016 御茶の水書房)。

こうした「したたか」で「しぶとい」、「根太い」生き続けるための広がった農民の「チエ」を大事にしたい。

### 農民の「勘」を活かす

渡辺兵力 最適環境の発見と最適環境の形成に関して知的技術が形成されるが、「待つ、見守る」による長い経験から形成されてくる。渡辺は「勘どころ」と表現(『農業技術論』1976 龍溪書舎)。

黒正巖「日本人のかんの強いということは、日本人の生活様式の多様性、凡ゆる複雑にして矛盾極まる事柄を一緒にしてやって居ることに依る」(『黒正巖著作集』第5巻360頁 2002 思文閣出版)、「長年月の間凡ゆる複雑性と矛盾との中に生活したために、西洋流の推理的論証が出来ない代りに、直観的全体観的把握力即ち勘の如きものが発達した」(同書第6巻96頁)。

クルチモウスキー『改訂農学原論』(橋本伝左衛門訳 1954 地球出版)、農業というものは数多くの要因が複雑に相互作用し、「要因のもつれ」Faktorengewirrがある(同書115頁)。「経験者が長い間の実地の経験で得たところの農業上の『勘』Taktgefühlがものをいう。・・・この農業的『勘』というものは、合理主義者は全然みとめない。・・・農業者は、理くつでは解くことの出来ない多くの事がらも、本能的に『勘』でもって、はるかに適切に割り切る」(同書111頁)。

| 人間選書 守田志郎著作集 全13点 |               |
|-------------------|---------------|
| むらがあって農協がある       | 小農はなぜ強いのか     |
| 農業は農業である          | 農業にとって技術とはなにか |
| 農法                | 農業にとって進歩とは    |
| 日本の村              | 文化の転回         |
| 農家と語る農業論          | 対話学習 日本の農耕    |
| むらの生活誌            | 学問の方法         |
| 二宮尊徳              |               |

守田志郎著作集 農文協

## 守田の「対象化の度合い」による新たな農法の仕組み

「技術は、何かを作るにあたって物を対象化させるために人が編み出す方法」（『農業にとって技術とはなにか』26頁 1976）。「労働対象というとき、その労働対象となるべき物は対象化されていなくてはならない。対象化の度合いは十分な場合も不十分な場合もある」（同書25頁）。「技術とは、工業の概念なのである。技術によって労働対象の一層の対象化が進展し、資本の力で量・質の両面で原材料選択への期待が存分に満たされるようになって、技術への期待がさらに高まってくるとき、一つの転換が行なわれる」（同書29頁）。

キーワードは、守田自身が言う「対象化の度合い」。それぞれの地域の歴史や文化によって育まれた「風土観」によって風土を仕組んでいくような風土技法においては、対象化の度合いは低い。個別の作物を「観察眼」により管理する養育技術では、対象化の度合いは進む。ごく最近のスマート農業など、対象化の度合いはますます高くなり、工業的技術による「つくる」農業に変貌しかけている。そうした外部の条件の変化に合わせて、「**農業者意識**」（小林一穂『農本主義と農業者意識』2019 御茶の水書房）により対応する（29頁の図参照）。これを資料21頁の日本列島農法の見取り図と重ね合わせると、主に風土観により「できる」のは、12、13世紀頃までの**生きもの循環の維持**である。そして人糞尿の施肥などによる集約化が進んでくると、**生きもの循環の攪乱**が始まる。「観察眼」の働きが大きくなり、「合わせ」ながら対象化の度合いが少しずつ高まる。そして20世紀の硫酸など化学肥料の施肥、耐肥性品種の登場などによりさらに対象化は進み、**生きもの循環の歪曲**がおこる。1960年代からの機械化、化学化、施設化などの工業的技術は、「つくる」へとさらにシフトし、**生きもの循環に亀裂**を生じさせることになる。守田が直面した事態はこの時代であった。農家は複眼的な「観察眼」により農法と技術を「合わせ」ていた。私は自然と人間との関係で「合わせ」を述べてきたが、**自然と人間、農法と技術の二重の意味において「合わせ」**てきた。

### 「設計思想（アーキテクチャー）」

藤本隆宏は、生産するに際し根本にある設計思想により、各地域のもの造り哲学を比較（『日本のもの造り哲学』2004 日本経済新聞社）。設計思想の基本タイプは二つ。一つは「**組み合わせ型（モジュラー型）**」で、機能完結部品を標準インターフェースでつなげるもの。既存部品の寄せ集めでも、製品全体が機能を発揮するように出来ている。ステレオやパソコンをイメージ。もう一つは「**擦り合わせ型（インテグラル型）**」。製品ごとに部品を相互調整してカスタム設計（最適設計）。製品全体の機能発揮のためには、各部品の最適設計が必要。トヨタの自動車生産。この「最適設計」は、渡辺兵力の言う農業における「最適環境の発見・形成」する知的技術、「合わせ」である。

藤本らによれば、歴史や初期条件の違いにより「得意アーキテクチャー」が国ごとに地政学的に偏在。**日本：統合力→擦り合わせ製品（オペレーション重視）**、**欧州：表現力→擦り合わせ製品（デザイン・ブランド重視）のインテグラル型**。アメリカ：構想力→組み合わせ製品（知識集約的）、**韓国：集中力→組み合わせ製品（資本集約的）**、**中国：動員力→組み合わせ製品（労働集約的）**はモジュラー型。

藤本・新宅純二郎『改訂新版 グローバル化と日本のものづくり』（2019 放送大学教育振興会）では、設計思想による「ものづくり」の考え方は、非製造業のサービス業や農業などでも考えられる（同書37頁）。インテグラル型の日本農業は、モジュラー型の韓国・中国と、東アジア農法、水田農業ということで一括りに出来るのか。

「農業は農業である」から、農業と工業が本質的に違うのは当たり前、それらを営む人たちの「設計図」は同じようにできているのではないか。農業は<生きている素材>に内在されている設計図にしたがって、その生育を待ち、見守り、栄養物を与え、手塩にかけて育てるので、生きている人間の脳の設計図は同調、共響して「合わせ」調整しようとする。工業は人間の脳で案出した設計図にもとづいて、<死んだ素材>を加工するもので、その設計図は「擦り合わせ」しようと調整する。「**合わせ・調整**」の共通性。

### 1971年の『農業は農業である』を50年後の2021年、再び読み返す現代的意義は？

農民作家の山下惣一は、『身土不二の探究』を行い（1998）、守田志郎の農法論を高く評価する（『小農救国論』2014）。有機農業などの差別・排除・独善的傾向を心配して、近代化の技術と経験を活かそう（『ザマミロ！農は永遠なりだ』2004）。「昭和30年代の前半まで農業は、今の言葉でいえばエコロジーな農業で、それこそ江戸時代中期からの膨大に書かれてきた農業の本『江戸農書』の教義を忠実に300年以上も継承してきたものだった。**根本原理は『まわし』すなわち循環である**」（『新しい小農』2019）、と言う。

驚きをもって迎えられた1971年の『農業は農業である』を50年後の2021年、輝きを取り戻して再び読み返す現代的意義はここにある。

# 「生きまわし」の日本列島農法の仕組み(案)

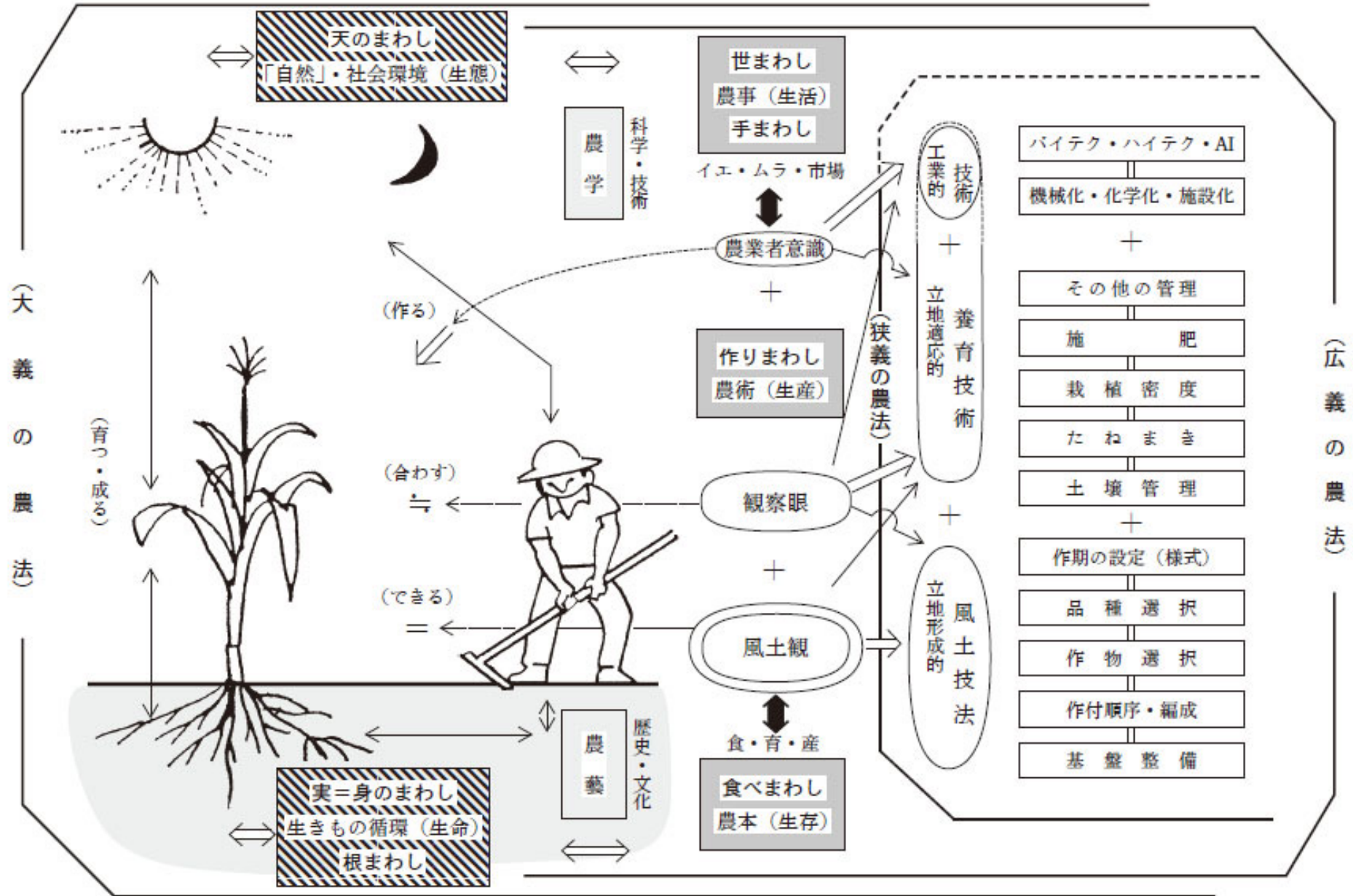


図 「生きまわし」の日本列島農法の仕組み(案) (徳永作図)

(注) 渡辺兵力『農業の技術』58頁の図と栗原浩『風土と環境』148頁の図を参考にした。

# 終章 生きもの循環論による農業経営史の新たな試み

## 渡辺兵力の主体—環境をめぐる総合的生命主義

主体と環境のまさに相互に働きかけ影響を受けるという面と、主体が環境と同一化する、環境を取り込み内在化するという二つの面がある。主体と環境の相互作用は、常に物質とエネルギーが・出力しながら「動的調和」「調和的均衡」を実現しており、生物一般とその全環境とを含む広大な循環構造をなす。生命をもつ生物体を主体に据えて万物を見ていく「総合的生命主義」の哲学である。→今西錦司、川喜田二郎「生命多重論」、熊代幸雄「生命意識」（渡辺と熊代、鞍田純は戦前に北京大学農学院で同僚）

生物と時空次元的に共存している「生の場」（＝生命的作用空間）がその生物の環境である。人間を含む生物界での主体と環境との関係は、環境から主体への「受領」、主体から環境への「対応」、両者の「交流」の三つの「働きかけ」がある。人々が利用する資源が限定されている条件で、通代的な期間を「生活」してきたという人間の生態は、「生」の必要条件として力を合わせて行動する「協働」という社会組織の形成が必要である。『改訂農業の経営』（1978）、『農業の技術』（1985）、『村を考える』（1986）

## 高橋正郎の三つの主体—環境系論

N. S. B. グラスの論文（“Why Study Business History?” *The Canadian Journal of Economics and Political Science* 4-3 1938 pp. 324）「経済史がものごとを行われてしまったこととして考察するのに対して、**経営史はそれを経過中のこととして考察する**」。F. レードリッヒの論文（“Approaches To Business History” *Business History Review* 36-1 1962 pp. 65-66）「**経営史学はプロセスそのものを問題とする**が、経済史学はプロセスの結果を問題とする」。高橋は金沢夏樹の二重構造論的農業経営学を批判して、中川敬一郎の比較経営史学を農業経営学に導入し、一定の自由な選択幅をもつ主体行動論農業経営学を開拓した。

三つの主体—環境系論を想定する。経営環境に対する農業経営の主体対応は、**農学的技術環境**に対しては経営学の農学的技術論が、**経営内部環境**に対しては農業経営管理論が、**市場環境・政策環境**に対しては農業経営戦略論が、それぞれ対応する。（『日本農業における企業者活動』2014農林統計出版）。

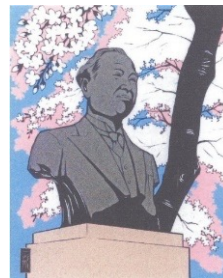
## 在地＝場での協働的な創発する広義の農法

私は三つの主体—環境系に関わる狭義・広義の日本農法の原理を、**くまわす⇔まわされる**のまわし、**くならず⇔ならされる**のならし、**く合わす⇔合わされる**の合わせとして、考える。主体から環境に対してはまわすと能動的となり、主体からは環境はまわされると受動的に捉えられるが、逆に環境からみれば主体を能動的にまわしているのであり、主体はまわされている。**主体—環境系の相互扶助、在地という場での両者の協働的な創発**を表現できる。そしてこの三つの主体—環境系の協働的創発を統合する働きが**く仕組む⇔仕組まれる**の仕組みである。

今まさに「農学」は求められている。何をか。企業的農業か家族農業か。専業か兼業か。有機農業か非有機農業か。農村か都市か。農業か工業か。二者択一とか二者融合でもない。ただ一つ、**「いのち」のまわし（循環）＝まわす⇔まわされる「大義の農法」**を実現するかどうかだけである。黒正巖が始めた農史講座の伝統と三橋農業経営史を受け継ぎ発展させたいと願う。「温故知新」である。

『黒正巖著作集』全7巻（2002 思文閣出版）

- 飯沼二郎 『農業革命論』（1956 創元社、1967・1987 未来社）
- 同 『農業革命の研究』（1985 農文協）
- 三橋時雄 『隠岐牧畑の歴史的研究』（1969 ミネルヴァ書房）
- 同 『日本農業経営史の研究』（1979 ミネルヴァ書房）
- 三好正喜 『ドイツ農書の研究—16世紀ドイツの農業生産力と農業経営類型—』（1975 風間書房）
- 同 『続・ドイツ農書の研究』（2012 北斗書房）
- 荒木幹雄 『日本蚕糸業発達とその基盤—養蚕農家経営—』（1996）
- 同 『農業経営発達史の研究—近代畿内農村の構造と担い手—』（2005 いずれもミネルヴァ書房）



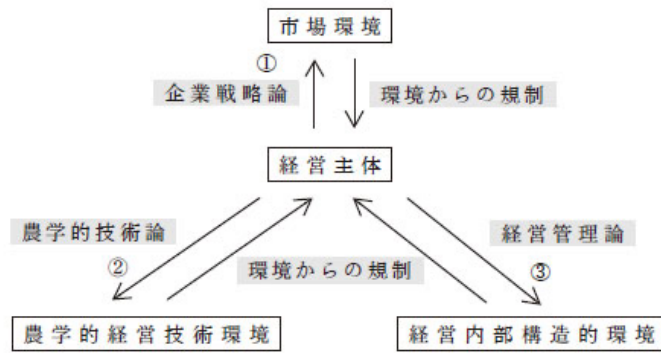
黒正巖先生  
（大経大卒業生・成田一徹の切り絵）



三橋時雄先生  
（娘さんの三橋節子画：  
『おろかおい』201頁 1975）

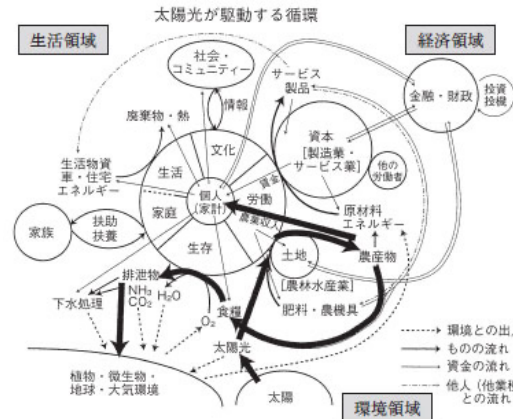
# 3つの主体—環境系をめぐる、在地＝場での協働的な創発による 広義の農法、そして歴史的展開

図 高橋正郎による「農業経営主体」が  
対応する「経営環境」の3側面



(注) 高橋正郎『日本農業における企業者活動』  
253頁より。

図 佐藤直樹による自然と結びついた「もの」の流れ



(注) 佐藤直樹『エントロピーから読み解く生物学』  
115頁より一部改変。

図 在地＝場における協働的な  
創発する農法の仕組み(徳永作図)

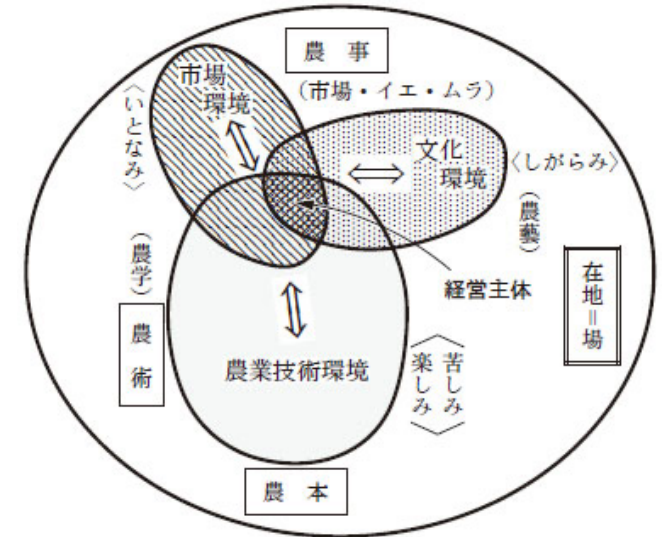
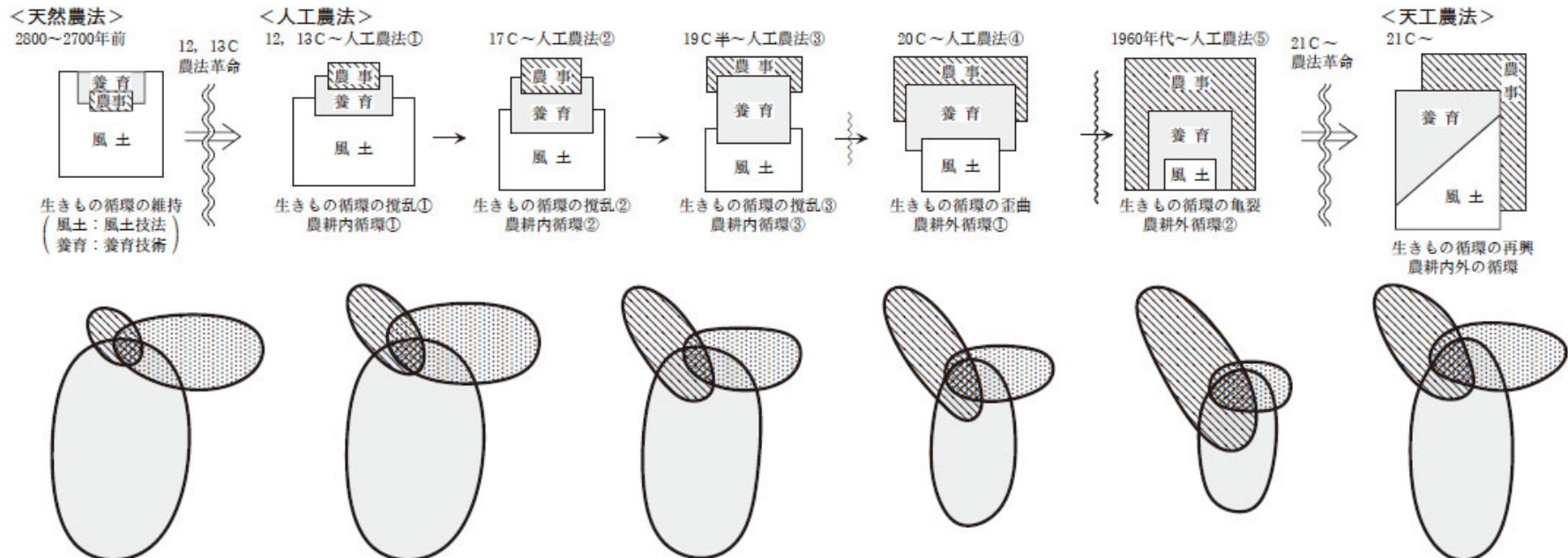


図 協働的な創発する農法の歴史的展開(徳永作図)



(徳永『大阪経大論集』第72巻4号 138頁)



# ドイツ農業経営学＋戦後農法論＋比較経営史＋生態学的農学

## ⇒農史的な農業経営史の創発

### 3つの主体—環境系をめぐる問題

それぞれの主体と環境の内容

大河内暁男の「経営構想力」→主体の**チェ・コツ・カン**＋知識・技術

同「経営生態系」→指標としての**作付方式**

(時間的な作付順序＋空間的な作付割合)

それぞれの主体と環境の相互関係

(横の関係：**相互扶助・協働** まわす⇔まわされる)

3つの主体—環境系の相互関係 (縦の関係：**創発**)

経営主体における少数の「革新・普及者」と大多数の「受容層」との関係

根本原理としての**生きまわし (循環) の農法**

根源基層としての**いのちの重層・創発**

### これまでの日本農業経営史の実証的研究

全 国：戸谷敏之『近世農業経営史論』(1949 日本評論社)

奥 羽：森嘉兵衛『近世奥羽農業経営組織論』(1953 有斐閣)

作付方式：沢村東平『農業技術研究所H報告』など(1950年前後)

隠岐牧畑：三橋時雄『隠岐牧畑の歴史的研究』(1969 ミネルヴァ書房)

庄内農法：細谷 昂『庄内稲作の歴史社会学』(2016 お茶の水書房)

大和農法：徳永光俊『日本農法史研究』(2000 農文協)

大阪府他：宮本常一『農業技術と経営の史的側面』(『著作集』第19巻 1975)

### 宮本常一による主体—環境系の見方

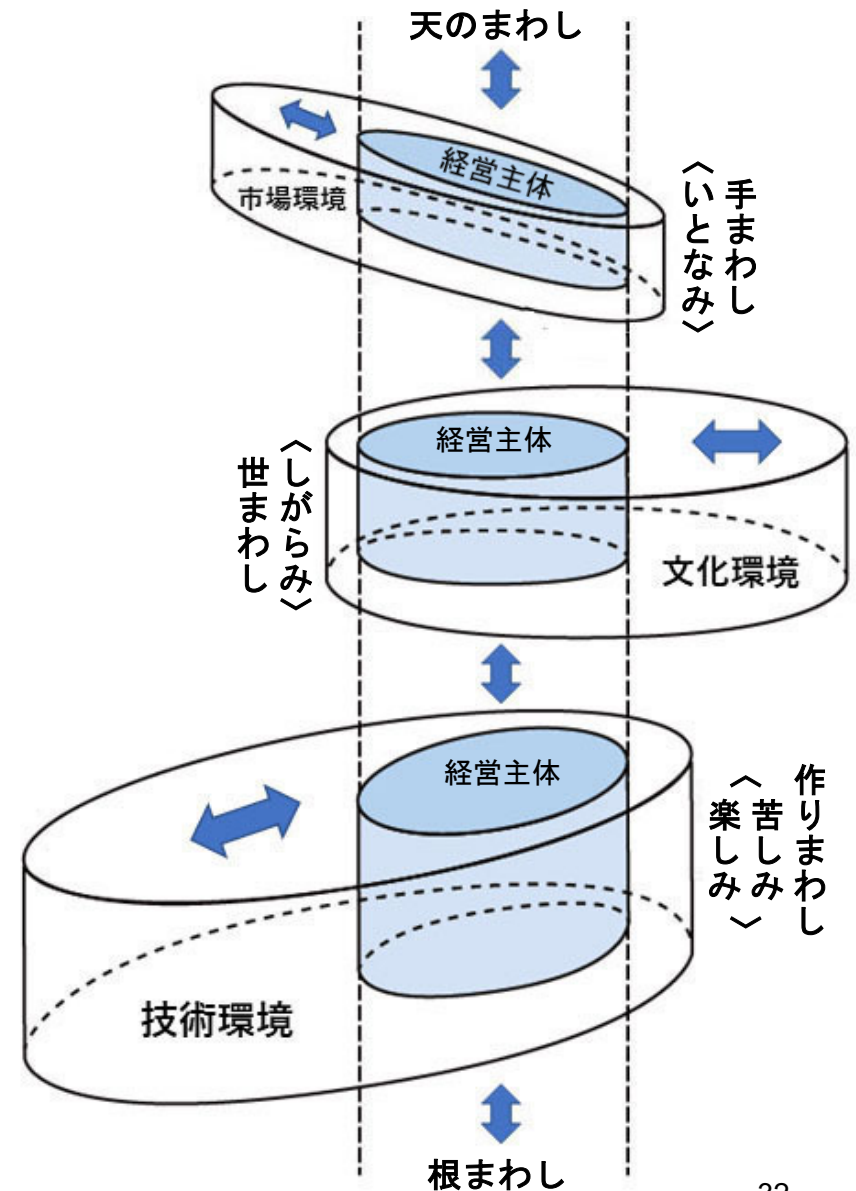
「そこにある生活一つ一つは西洋からきた学問や思想の影響をうけず、また武家的な儒教道德のにおいのすくない、さらにそれ以前の考え方によってたてられたものようであった。この人たちの生活に秩序をあたえているものは、村の中の、また家の中の人と人との結びつきを大切にすることであり、目に見えぬ神を裏切らぬことであった」(『忘れられた日本人』岩波文庫版289頁)。

「学者たちは階層分化をやかましくいう。それも事実であろう。しかし一方では**平均運動**もおこっている。全国をあるいてみての感想では地域的に階層分化と同じくらいに比重をしめていると思われるが、この方は問題にしようとする人がいない。実はこの事実のなかにあたらしい芽があるのではないのだろうか。古い地主の生活をみることもたいせつであるとともに、そういう**財産平均化**の姿もみたい」(同書299頁)

安藤昌益の言う「活(い)きて真(まこと)なる」「自然(ひとりする)」

「互性循環」＝「直耕」の活動こそが、「生きもの循環」の根源である。

図 3つの主体—環境系の協働で創発する農法の構造(徳永作図)



# 在地＝場における経営主体の相互扶助＝協働の歴史的展開

## 農業経営における経営主体の歴史的展開

|                                                                                                | 大多数の受容層                                                                           | 少数の革新・普及者                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 江戸～明治大正                                                                                        | 通俗道徳（勤勉・節約・和合）                                                                    | 老農                                                                                       |
| 東畑精一（1936）                                                                                     | 単なる業主                                                                             | （×企業者）                                                                                   |
| 三沢嶽郎（1950）<br>渡辺兵力（1952）                                                                       | 自給・安全を選ぶ 予想（長期・中期・短期）と選好（投機・安定）<br>静態的・慣行的（先駆的・追従的）<br>慣行的経営集団                    | 動態的・発展的（単独・集団）<br>組織的経営集団                                                                |
| 吉田寛一（1961）<br>沢村東平（1967）                                                                       | 家族経営（有畜複合経営）<br>家族農場経営                                                            |                                                                                          |
| 高橋正郎（1968）<br>甲田 齊（1980）<br>八木俊輔（1991）<br>大泉一貫（1993）<br>吉田寛一（1995）<br>大泉一貫（2004）<br>木村伸男（2008） | 安定志向型      バランス型<br>客車農家<br>家族経営（農民的複合経営）<br>国家依存型農家 集落依存型農家<br>副業的家族農業経営 生業的家族経営 | 企業的農業組織＝中間組織体<br>先導的農業者<br>変革志向型<br>機関車経営<br>（企業的畜産経営）<br>自分に尊厳をおく農民像<br>企業的家族経営 企業的農業経営 |
| 高橋正郎（2014）<br>小田滋晃ら（2013）<br>南石晃明ら（2016）<br>岩元 泉（2015）<br>柳村俊介（2018）                           | 家族農業経営（生活農業）<br>家族的・地域的要素      併存                                                 | 企業的農業生産法人<br>農企業<br>スマート農業・農業法人<br>企業的要素                                                 |

## 宮本常一による各経営主体への見方

「世の人々は農民を固陋といい、頑迷というけれども、・・・今のような生産能力と社会制度では、今のように生きてゆくことが一ぱん安全であり安定している」（『庶民の発見』講談社学術文庫21頁）。「文字に縁のうすい人たちは、自分をまもり、自分のしなければ事は誠実にはたし、また隣人を愛し、どこか底ぬけの明るいところを持って」いる

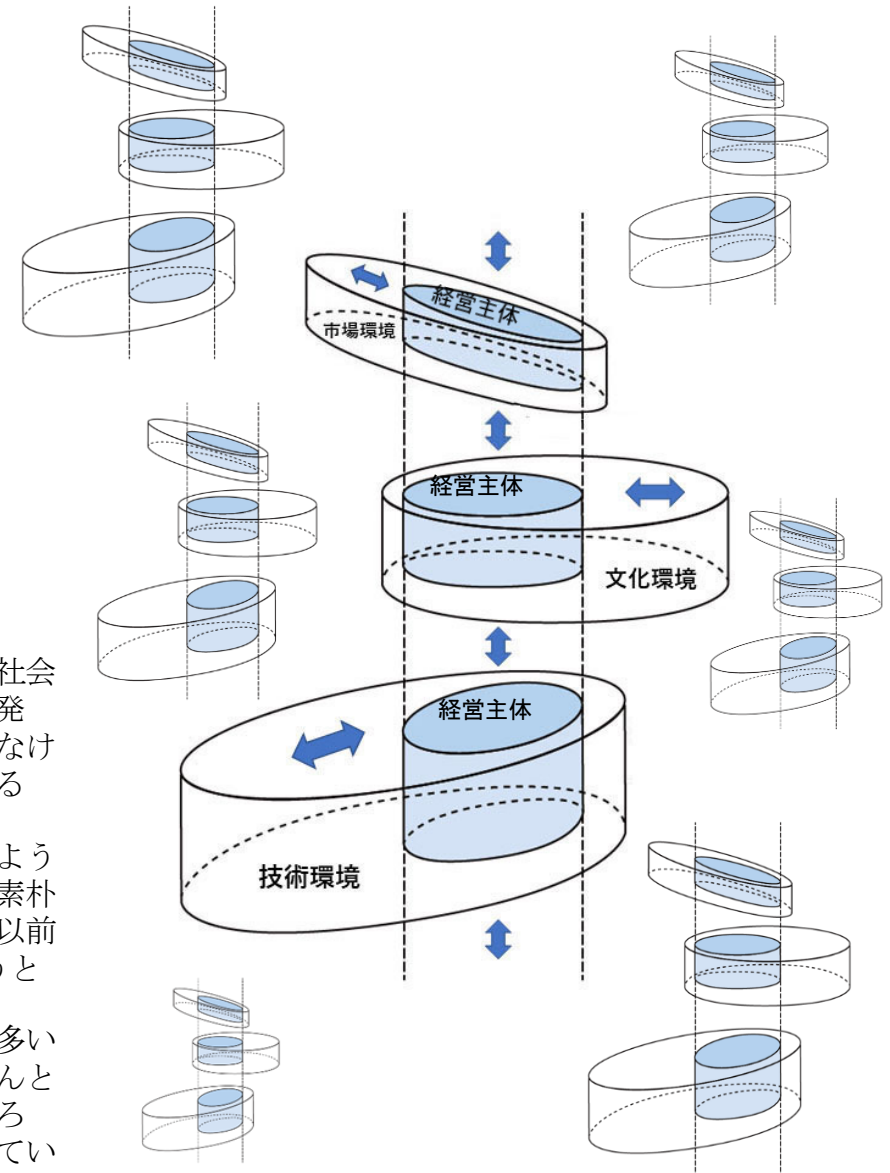
（『忘れられた日本人』270頁）。

「民間のすぐれた伝承者が文字をもってくと、・・・自分たちの生活をよりよくしようとする努力が、人一倍つよくなるのが共通した現象であり、その中には農民としての素朴でエネルギーな明るさが生きている。そうしてこういう人たちを中軸にして戦争以前の村は前進していったのである」（同書303頁）。「村全体を同じ高さにおしあげようとする意欲が動いている」（『庶民の発見』136頁）。

「思慮深いある老農が私にこんなことをいった。『今日ほど農民指導者と称する人の多い時代はない。無数の人が指導者として農村に入りこんでくる。しかしその人たちはほんとうに農民の味方なのだろうか。いったいあの人たちの何人が農民の中で死んでゆくだろう。・・・いままでの例では指導に成功したと人々からいわれたとき、その人はたいてい農民からはるか離れたところにいた』」（同書275頁）。

守田志郎は言う「部落が約束するものは、最大多数の最大幸福ではなく、全員の中位の幸福なのである」。＝ヨコ社会

図 在地＝場における各主体—環境系どうしの相互扶助＝協働 (徳永作図)



# 生き続ける農家、「農本主義」のウソ、農家に寄り添う農史的な農業経営史

## 10世代300年間以上にわたり永続する農家の特徴

1943・44年の19県143名からの聞き取り調査での共通点：農地・山林がある**中規模農家**、跡取り教育をして先祖祭祀をきちんとする、嫁の選択は釣り合いを考えるが家庭内の地位は低い、集落の世話役や一族のまとめ役、敬神崇祖で高齢者を大事にして年中行事が行なわれる。

1993年の50年後の追跡調査、143戸中130戸が確認でき、107戸からアンケートを回収、うち13県33戸を聞き取り調査。85%の99戸が存続しており、同期間の都府県農家全体の存続率は64%なので20%ほど高い。共通点：立地は中山間地域が多い。多世代同居の直系拡大家族が中心で、西日本では世代間で住み分けているのが多い。農家経済は農業収入、兼業収入、年金収入と多元化しており、財布はルースリーな個人化が進んでいる。女性、嫁の地位というのはすっかり様変わりしている。家産意識は根強いものがまだある。

兼業化が進行しているが、50年前と同じで1～2町の**中規模層**がハードコアとして存在している。有畜複合経営は退潮しているが、自家菜園はしっかりやっている。跡継ぎに関しては、ほとんど確保できているが、農離れは進行している。むらの世話役、一族のまとめ役である地域リーダーとしてこれまでは頑張ってきたが、今後は人並みで行きたいと消極的になっている。固有文化の担い手として寺社総代や村祭りの世話人などを務めてきており、強い責任感を持っている（日本農業研究所編『農家永続の研究』1994農文協、『永続農家に関する研究』1943・44 東亜農業研究所）。

## 宮本常一のまなざし

1965年に言う。「今日、農業ほど若い者たちに嫌われている職業はないであろう」。「昔は『農は百業の基』などといわれ、最も尊い職業だと言いつづけられてきた。それは一つのおだてであり、まやかしであった。しかし、百姓たちはその言葉にのって、今日まで一所懸命に働きつづけてきたのであるが、尊い職業に対して、政府も社会もほとんど報いることがなかった。そして、気がついたときは、世間からおいてけぼりを食いはじめていたのである。女たちの中には、そういう運命を本能的に知っていた者が多かった」（『日本民衆史6・生業の歴史』10、13頁 1993 未来社）。

小出満二著作集『農学・農業・教育論』（1982 農文協）

鞍田 純『農村生活総論』（1980 明文書房）

森川辰夫『農村生活の構造—農家生活リズム論的分析』（1981 明文書房）

君塚正義『村落社会の展開と農村生活』（1985 筑波書房）

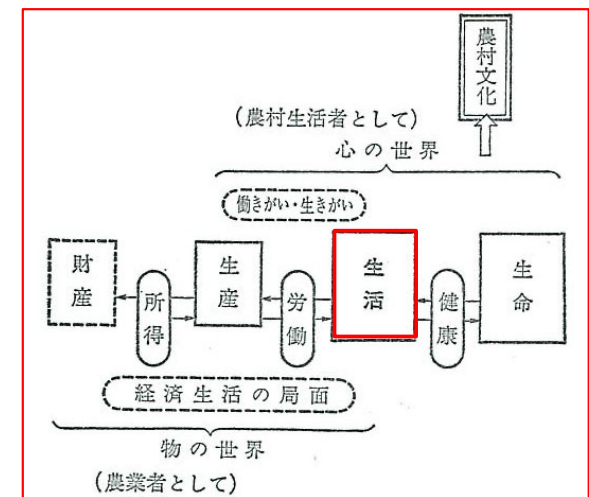
安藤義道『現代農民のライフヒストリーと就農行動』（1999 お茶の水書房）

## 黒正巖の農史学

農史学に関し「この講座は訳のわからぬ講座」（1947年カ『著作集』第7巻7頁）と述懐し、「地理学、歴史学位雑炊的な学問はなく」（1944年 第7巻59頁）と述べる。経済学など「ごく最近の新しい学問は極めて簡単明瞭であります。それは、夾雑物が無いからであります。分科して出たものだからはっきりしている」（第7巻59頁）、と断言する。

黒正は農民たちの根底に「我が子を育成するかの如く」「自己の子供の生長をたのしむが如く」「生産物に愛着を有する」といったものが流れていることを強調する（第7巻150～151頁）。しかし農本主義については「昔から農は国の本だとか、一に百姓、二に殿様などといったけれども、之は農民をおだててよく働かせるための標語にすぎない。何人も真心からそう思っていたのではなく、内心は百姓を軽蔑していたのである」（第7巻151頁）、と欺瞞性を暴く。

図 森川辰夫による生活理念の構成模式図



(注)森川『農村生活の構造』10頁

# 「響存—高見観音—」(2019 倉貫徹作)

新経済史  
宣言  
大阪に産して  
時空を超える

## 黒正塾

### 第18回 春季歴史講演会

# 生きもの循環論から見る 日本列島農法史と 農業の未来

**講師 徳永 光俊** 大阪経済大学  
名誉教授・前学長

主な著書  
《単著》『日本農法の心』(山田文化協会、2019年)  
《共編著》『黒正巖著作集』(全7巻、思文閣出版、2002年)  
《単著》『日本農法史研究』(農文館、1997年)  
《共編著》『日本農書全集』(第10期、全37巻、農文館、1993～99年)

**日時** 2021年5月22日(土)14:00～16:00

**会場** 大阪経済大学  
地下鉄今里筋線「陽光四丁目」駅下車、徒歩約2分  
阪急京都線「上新庄」駅下車、徒歩約15分

**定員** 会場80名／オンライン300名  
いずれも参加無料、事前申込制(抽選)

**申込方法**  
郵便番号・住所、氏名(ふりがな)、電話番号、生年をご記入の上、お申込みください。

**【会場参加】**  
ハガキで申込み 宛先: 〒533-8533 大阪経済大学日本経済史研究所「黒正塾」係  
申込締切 → **4月12日(月)必着**  
●当選者には5月10日(木)までに受講票ハガキをお送りいたします。会場へのご入場には受講票が必要です。

**【オンライン参加】**  
メールで申込み 送信先: [kokusho@osaka-ue.ac.jp](mailto:kokusho@osaka-ue.ac.jp)  
申込締切 → **5月17日(月)必着**  
●視聴方法などを知らせるメールをお送りします。

※申込みに際しての個人情報等は本学が主催する講演会の運営のみに使用いたします。

**お問合せ先**  
大阪経済大学 日本経済史研究所  
e-mail: [nikkeisi@osaka-ue.ac.jp](mailto:nikkeisi@osaka-ue.ac.jp)

◎講演会の内容などに変更または中止事由が生じた場合は  
ホームページでお知らせいたします。  
<https://www.osaka-ue.ac.jp/research/nikkeisi/>



作品のタイトル「響存」は、作者・倉貫徹氏の学生時代のゼミの恩師であった第6代学長(1980～1986)・鈴木亨博士(1919～)の「響存哲学」に由来します。

西田幾多郎の日本哲学を創造的に発展させた鈴木先生は、2019年めでたくも百寿を迎えられました。

「高見観音」は、奈良県東吉野村の清流高見川から採られた「宇宙の石の意志」が描きました。作者の愛する法隆寺・百済観音のお姿を髣髴とさせます。

「天地」—「自然(ひとりする)」の石—「生きもの」の作者による「響存」から、新たな「いのち」が「産霊(むすび)」ます。

鈴木先生が言われる「響存」は「おたがいさま」と労りあう、「存在者逆接空」の「空」は「おかげさま」と祈る、日本文化の「こころ」です。

それは、初代学長(1949)・黒正巖博士(1895～1949)の教え「道理貫天地(道理は天地を貫く)」「研学修道」と通じあいます。



鈴木先生(右)と倉貫氏(2019)

2020年3月吉日  
寄贈者 第13代学長(2010～2019)  
徳永光俊

日本画家・堀文子(1918～2019)の言葉  
「群れない、慣れない、頼らない。これが私の  
モットーです。」「一所不住の美の旅」

木彫家・平櫛田中(1872～1979)の言葉  
「いまやらねばいつできる。わしがやらねば  
だれがやる。」

日本画家・奥村土牛(1889～1990)の言葉  
「芸術に完成はありえない。要はどこまで大きく  
未完成で終わるかである。」